

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type - SZ • User's Manual

オフィスシリーズ Type - SZ

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。

ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

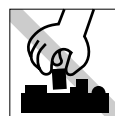
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



交流100Vの電源以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



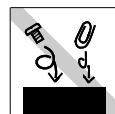
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンター
または修理センターにご相談ください。

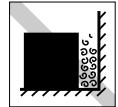


本製品の通風孔をふさがないでください。

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。

設置する際は、次の点を守ってください。

- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上などに設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

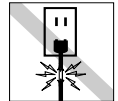


破損した電源コードは使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・熱器具の近くに配線しない。

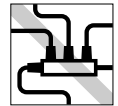
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談く
ださい。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

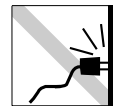
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでくださ
い。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置し
ないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があ
ります。



⚠ 警告

雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。
感電の原因となります。



⚠ 注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



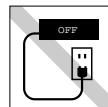
不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



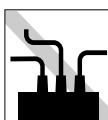
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。



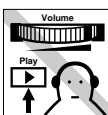
拡張ボードやDIMMの取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化などは、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



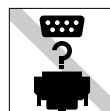
注意

長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。

誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。





使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータにDIMMや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法について説明します。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、ハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法や、仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (9)

製品保護上の注意 (12)

使用・保管時の注意	(12)
記録メディア	(13)
マウス	(14)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 2

コンピュータを使い始めるまでの手順 ..	2
ご使用前の確認事項	3
システムの特長	4
添付されているソフトウェア	5

各部の名称と働き 6

本体前面	6
本体背面	7

コンピュータの設置 8

電源の入れ方とWindowsのセットアップ 17

Windowsが使用できるように なるまでの作業	17
電源を入れる前に	18
電源の入れ方とWindowsの起動	19
Windowsのセットアップ	20

セットアップ終了後の作業 26

バックアップディスクの作成	26
Windows98起動ディスクの作成 (Windows98のみ)	28
セットアップブートディスクの作成 (Windows2000のみ)	29
ネットワークに接続する	30
VirusScan for Windowsのインストール ...	30
その他の設定	30

Windows使用時の確認事項 31

2回目以降に電源を入れる	31
音量の調節	32
省電力機能	32
デバイスドライバをインストールするときは ...	33
購入時のHDD領域の設定について ...	33
デスクトップクリーンアップ(WindowsXPのみ) ...	34
ステップバイステップインタラクティブ の実行について(WindowsXPのみ) ..	34
JAVA VMのインストール(WindowsXPのみ) ..	35

電源の切り方 36

Windows98の終了と電源の切り方 ...	36
Windows2000の終了と電源の切り方 ...	37
WindowsXPの終了と電源の切り方 ...	37
リセット	38

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 40

キーの種類と役割	40
文字を入力するには	41
日本語を入力するには	41
キーロック表示ランプ	42
Fnキーと組み合わせて使うキー	43
Windowsキー	43

マウスを使う 44

マウスの操作	44
マウスの設定変更	44

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う 45

FDのセットと取り出し	46
FDのフォーマット	48

データのバックアップ	49
ライトプロテクト（書き込み禁止） ..	49
HDD（ハードディスクドライブ）を使う	50
データのバックアップ	50
購入時のHDD領域について	50
CD-ROMドライブを使う	51
CD-ROMのセットと取り出し	51
強制的なCD-ROMの取り出し	54
ディスプレイ機能を使う	55
解像度や表示色を変更するには	56
表示できる解像度と表示色	57
ディスプレイの設定	57
サウンド機能を使う	58
外部オーディオ機器などの接続	58
音声の再生・録音	59
省電力機能を使う	60
省電力機能の種類	61
省電力機能を実行する前の確認事項 ..	62
実行方法	64
復帰方法	66
その他の機能	67
ネットワーク機能を使う	67
パラレルコネクを使う	67
シリアルコネクタを使う	68
USBコネクタを使う	68
コンピュータウィルスの検索・駆除 ...	69

システムの拡張

拡張できる装置	72
作業時の注意	73

本体カバーの取り外し・取り付け 74

本体カバーの取り外し・取り付け .. 74

DIMMの増設 77

DIMMの仕様

DIMMの取り付け・取り外し

拡張ボードの装着 81

拡張スロットの仕様

拡張ボードの取り付け・取り外し .. 82

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に 88

BIOS Setupユーティリティの操作 89

BIOS Setupユーティリティの起動 .. 89

BIOS Setupユーティリティの操作 .. 90

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの終了 .. 93

BIOS Setupユーティリティの設定項目 94

Mainメニュー画面

Passwordの設定

Advancedメニュー画面

Powerメニュー画面

Bootメニュー画面

Exitメニュー画面

BIOSの設定値

こんなときは

困ったときに 104

コンピュータ本体の不具合

省電力機能に関する不具合

キーボードの不具合	108
マウスの不具合	109
ディスプレイの不具合	110
FDDの不具合	113
HDDの不具合	114
CD-ROMドライブの不具合	115
アプリケーションソフトの不具合	117
メモリの不具合	118
インストール時の不具合	118
拡張ボード、周辺機器の増設に 関する不具合	119
プリンタの不具合	120
内蔵スピーカの不具合	120

警告メッセージが表示されたら	121
-----------------------	------------

付録

お手入れ	124
本機のお手入れ	124
マウスのお手入れ	124
リチウム電池の交換	126
CMOS RAMの初期化	129
HDDを購入時の状態に戻す	132
必要なメディア	132
HDDを購入時の状態に戻す順番 ...	133
HDDを購入時の状態に戻す場合の注意 ..	134
リカバリの実行	136
Windowsのセットアップと セットアップ終了後の作業	137
マウスドライバのインストール	138
そのほかの作業	139
HDD領域の変更	141
MS-DOS領域の概要	141
HDD領域変更の手順	142

FDISKコマンド	144
コンピュータの起動	145
HDD領域の変更 (Windows98/Windows2000) ...	146
HDD領域の変更 (WindowsXP) ..	151

コンピュータ内部のケーブル接続	155
------------------------	------------

機能仕様一覧	156
---------------	------------

用語集	157
------------	------------

索引	164
-----------	------------

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



1 2

Ctrl

Ctrl + Z

制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。


覚えておくとお利便なことを記載しています。




説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。



操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。

この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータで使用する次の製品の名称をアルファベットで表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書では、オペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 98

Microsoft® Windows® 98 Operating system

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows XP

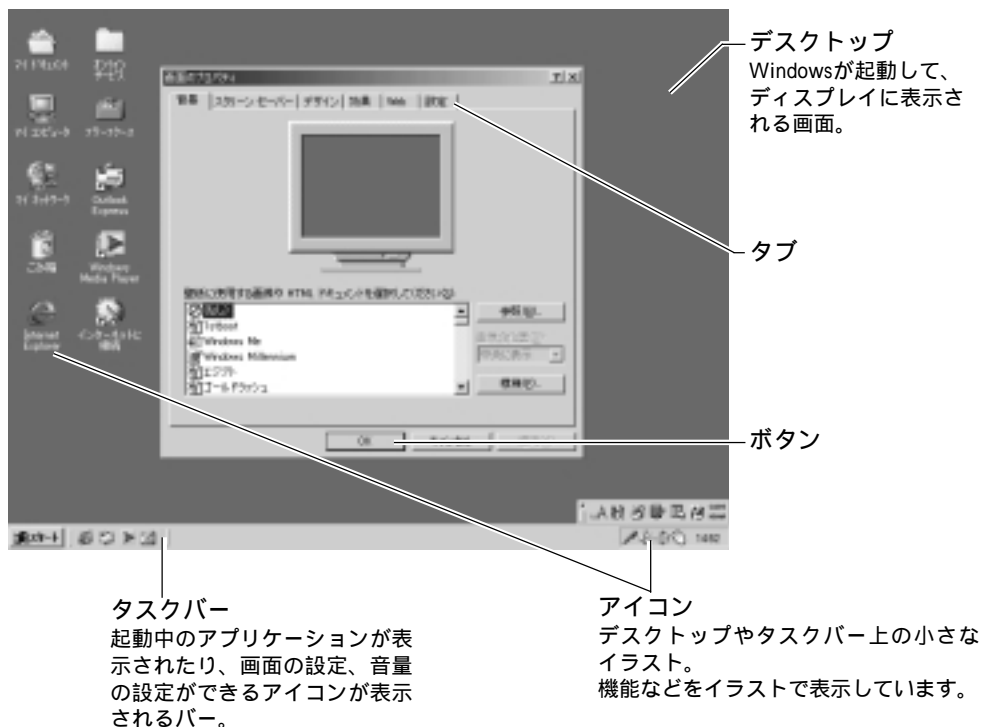
Microsoft® Windows® XP Professional

MS-DOS

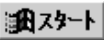

Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

Windows98/Windows2000の画面表示に関する記載方法

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは、[]で囲んで記載します。

例  :[スタート]  :[OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

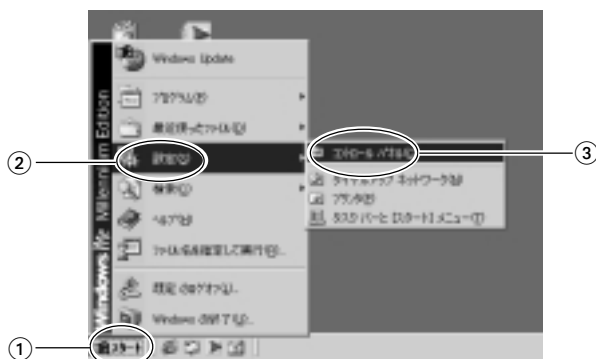
本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 :[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 :①[スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

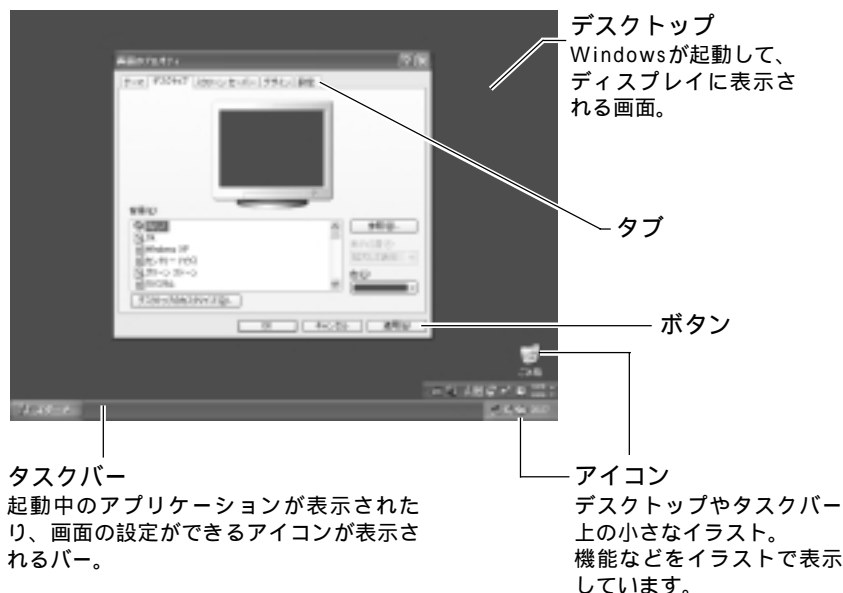


WindowsXPの画面表示に関する記載方法

本書では、WindowsXP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

マニュアル中で使用している画面は、おもにWindows98/Windows2000のもです。

WindowsXPで表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



ボタンは [] で囲んで記載します。

例 [スタート] : [スタート] [OK] : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

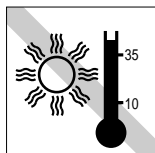
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



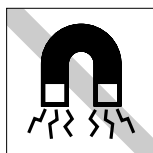
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

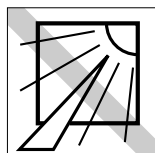
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



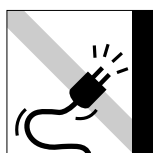
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



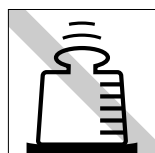
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。
コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破損することがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



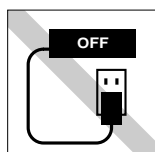
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



本製品の上には重い物を載せないでください。（本製品が横置きの場合、18kgまでのディスプレイを載せることができます。）
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



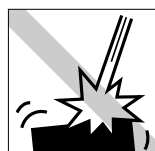
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



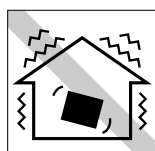
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（HDD、CD-ROMドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



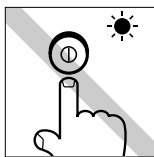
コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



輸送や保管をするときは、付属物（FD、CD-ROMなど）をセットしたままにしないでください。
付属物は取り出し、配線ケーブルはすべて取り外してください。



アクセスランプ点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

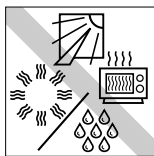
FD

CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

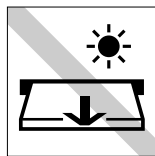
FD

CD

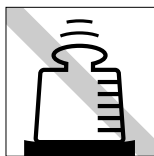
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



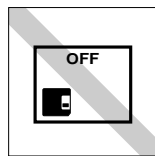
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



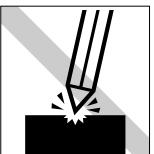
アクセスランプ点灯/点滅中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。



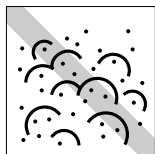
上に物を載せないでください。



使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



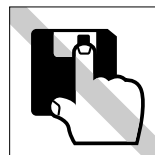
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。

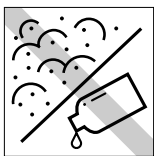


クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

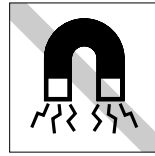


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD

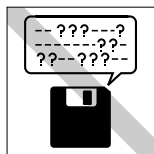


磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

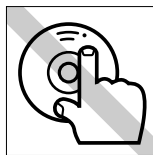


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

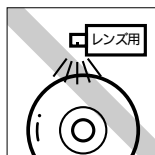
FD



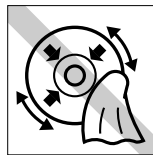
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。 **FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。 **CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。 **CD**



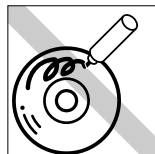
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。 **CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。 **CD**



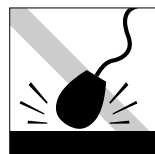
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。 **CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。 **CD**

マウス

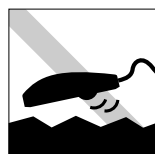
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



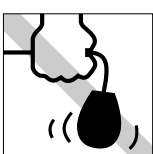
落したり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



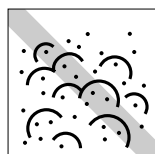
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

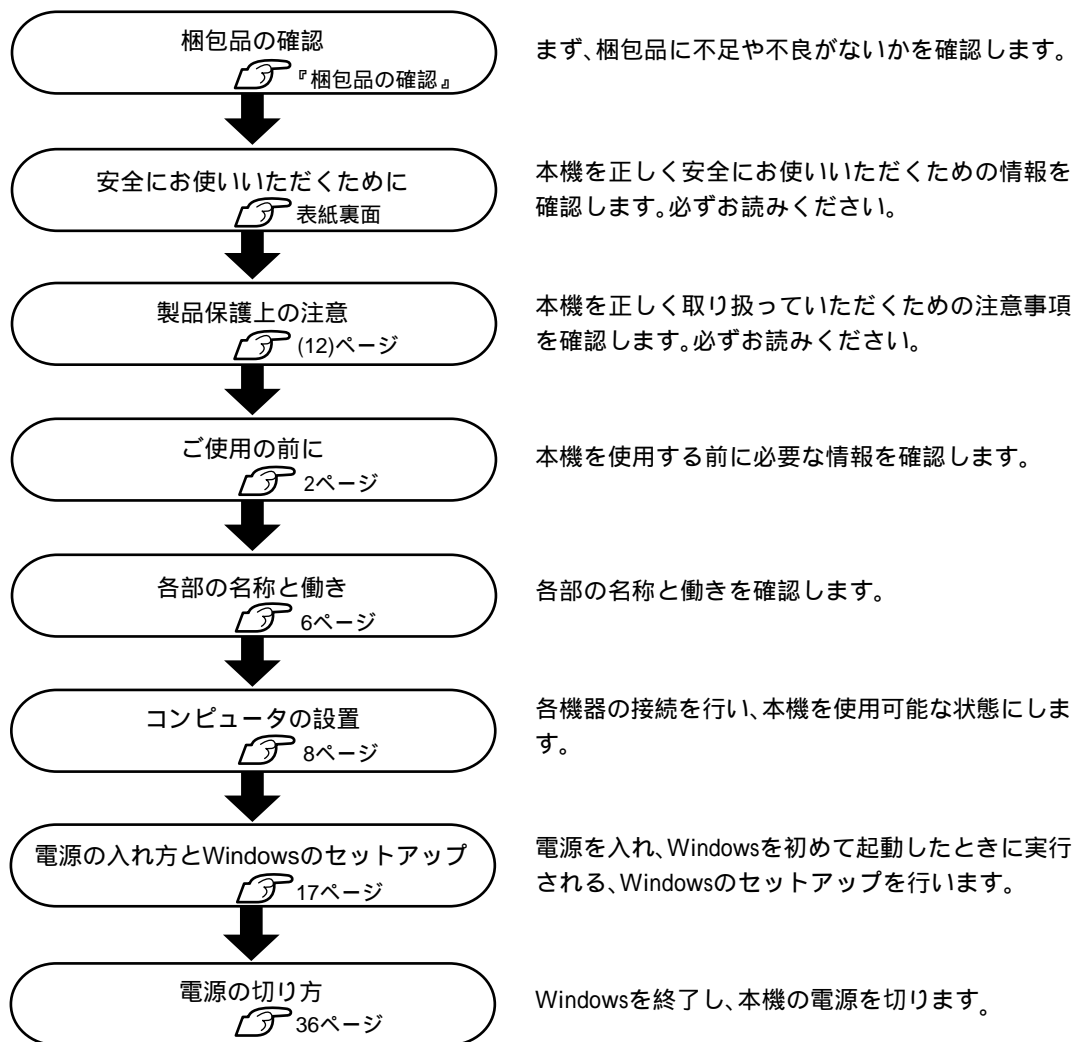
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

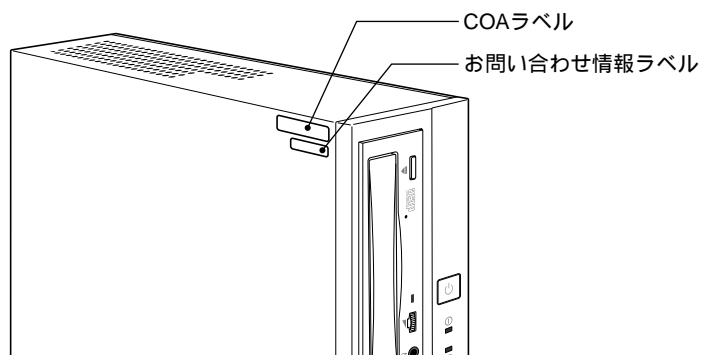
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をお読みください。

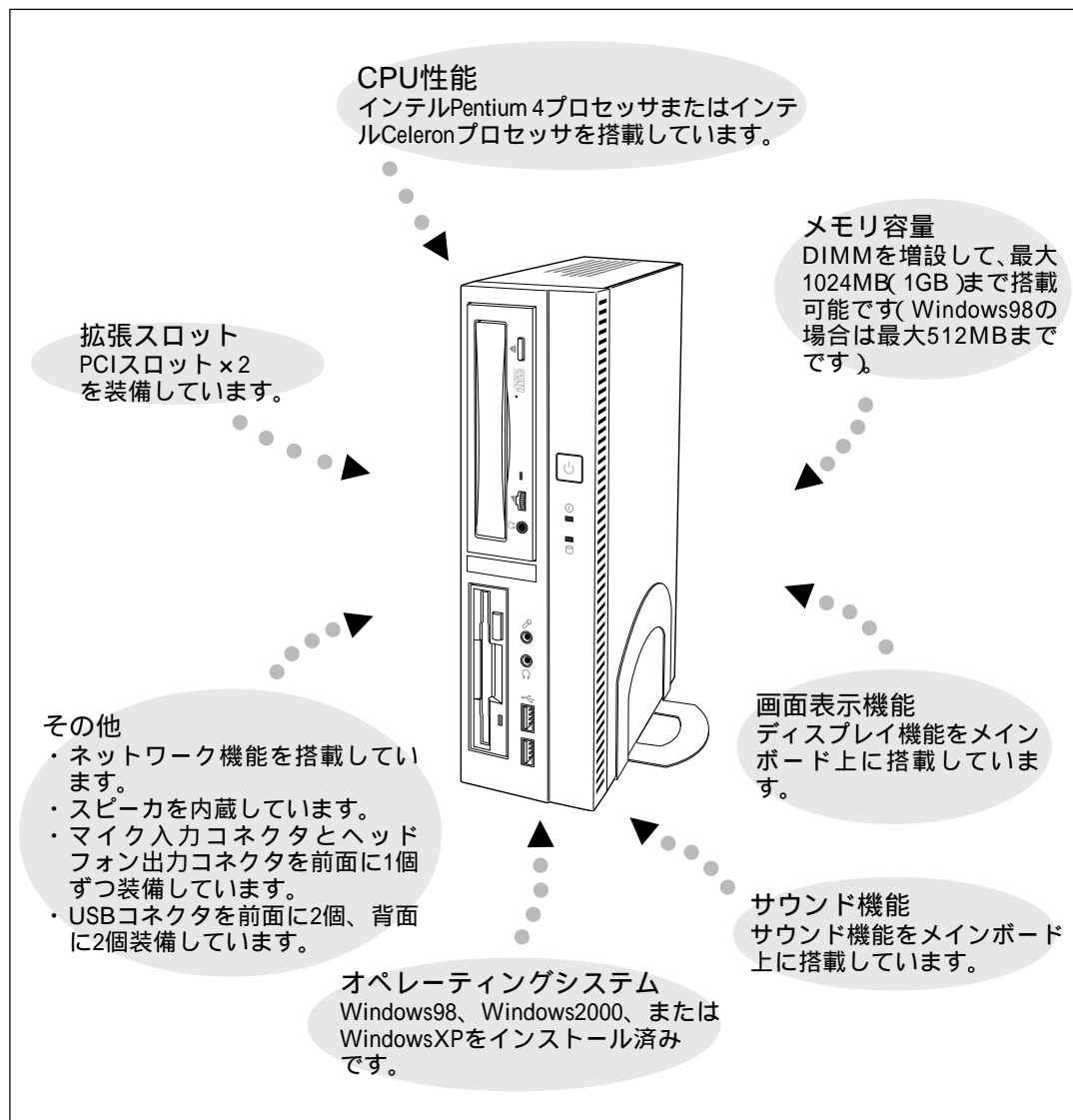
COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindowsを購入されたことを証明するラベルです。絶対にはがさないでください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方



: 購入時にHDDにインストールされています。



: 購入時にはインストールされていません。Windowsのセットアップ後にインストールしてください。

リカバリCDに登録されているソフトウェア

Windows

Windowsは最新のものがインストールされています。



Intel845チップセット用ドライバ

メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするためのドライバです。



ディスプレイドライバ

Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。



サウンドドライバ

音を鳴らしたり、録音したりするためのデバイスドライバです。



ネットワークドライバ

ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。



Adobe Acrobat Reader

様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルを表示したりプリントができるソフトウェアです。



専用のCDに登録されているソフトウェア

VirusScan for Windows

最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。



CD名: ユーティリティCD

マウスドライバ

ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。



CD名: マウスドライバCD

バックアップディスクを作成するソフトウェア*

マニュアル(PDFファイル)

『ユーザーズマニュアル(本書)』がデスクトップ上でいつでも見られるようにPDF化されています。

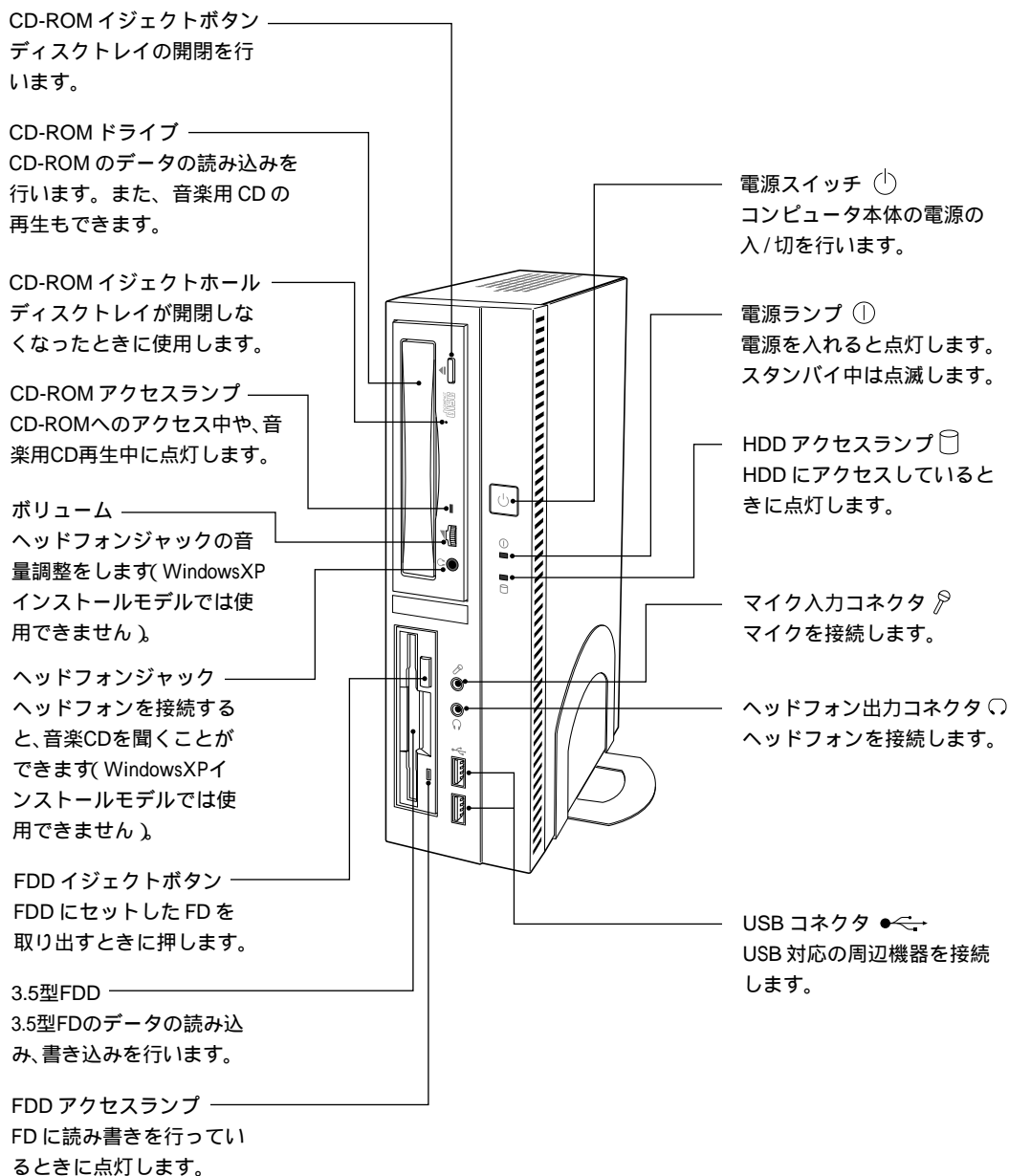


* 購入時のシステム構成によっては、上記以外のソフトウェアのバックアップディスクを作成する場合があります。

各部の名称と働き

本体前面

購入時のシステム構成により、CD-ROMドライブの代わりにCD-R/RWドライブなど別のドライブ装置が装着されていることがあります。この場合、ドライブ装置の各部の名称と働きは、ドライブ装置に添付のマニュアルでご確認ください。





本体背面





ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。


誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。


キーボードコネクタ 
キーボードを接続します。


USB コネクタ 
USB 対応の周辺機器を接続します。


シリアルコネクタ 
モデムなど、RS-232C インターフェースに対応した機器を接続します。


VGA コネクタ 
アナログ方式のディスプレイを接続します。


ライン出力コネクタ 
外部スピーカなどを接続します。


ライン入力コネクタ 
オーディオ機器の出力信号線を接続します。


DVI-D コネクタ 
デジタル方式のディスプレイを接続します。

電源コネクタ 
添付の電源コードを接続して電気を供給します。

マウスコネクタ 
PS/2 マウスを接続します。

ネットワークコネクタ 
ローカルエリアネットワーク接続用のコネクタです。

パラレルコネクタ 
プリンタやスキャナなどを接続します。

ゲームポート/MIDIコネクタ 
ジョイスティックなどを接続します。

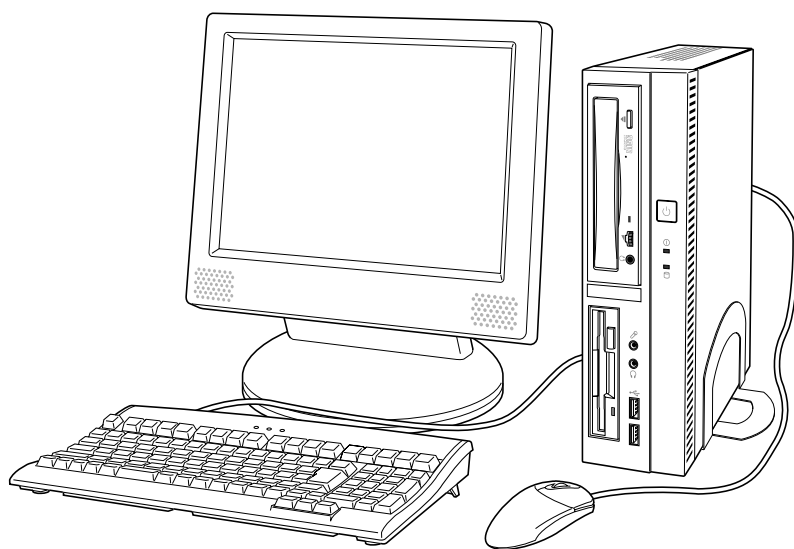
拡張スロット
拡張ボードを装着します。

冷却ファン
内部で発生する熱を逃がします。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



警告

本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。

- ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上に設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



注意

不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

故障や誤動作を防ぐため、p(12)「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



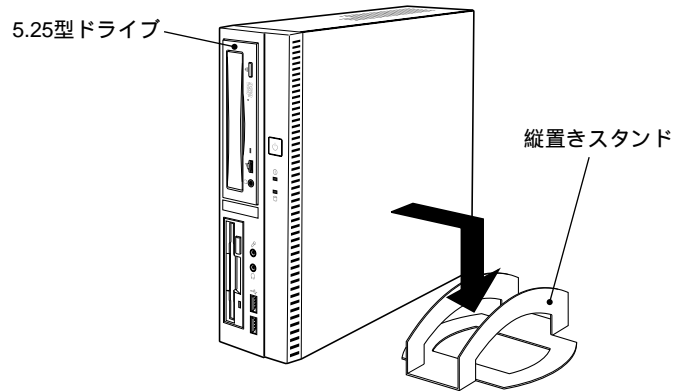
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

1

作業スペースに応じて、本機を縦置きまたは横置きのどちらにするか決めます。

縦置きにする場合

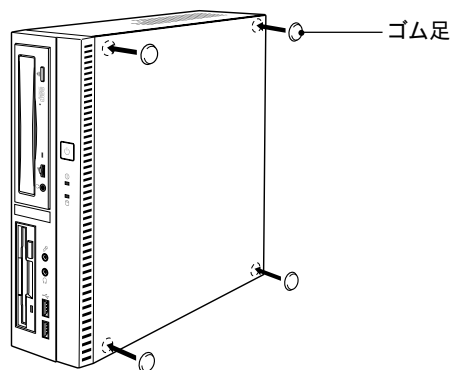
5.25型ドライブ側を上にして、縦置きスタンドにセットします。本機が縦置きスタンドの中央に位置するようにします。



本機を縦置きにして使用する場合は、必ず5.25型ドライブ側を上にして設置してください。5.25型ドライブ側を下にすると、通風孔がふさがった状態になるため、コンピュータ内部に熱がこもり、火災の原因となります。

横置きにする場合

- ① 添付のゴム足(4個)を本体底面の四隅に付けます。

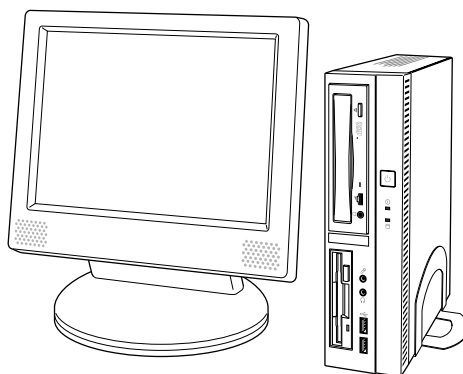


- ② 本機を横置きにします。



本機を横置きにして使用する場合、本機の上に載せられるディスプレイの重さは18kgまでです。
それ以上の重さのディスプレイは載せないでください。

- 2 本機とディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。



以降は、本機を縦置きにして設置し、各ケーブルを接続する手順を説明しています。本機を横置きにして使用する場合も、設置・接続の手順は同様です。

ディスプレイの接続

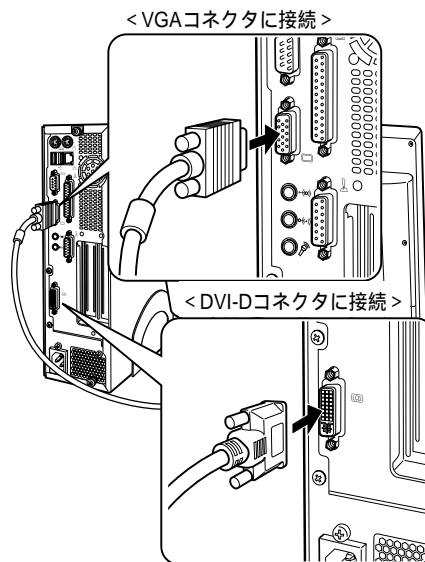
ディスプレイの接続方法や注意事項などの詳細については、お使いになるディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3

使用するディスプレイがアナログ方式かデジタル方式かを確認し、ディスプレイの接続コードを該当するコネクタに接続します。

アナログ (VGA) 方式ディスプレイの場合 : VGAコネクタ

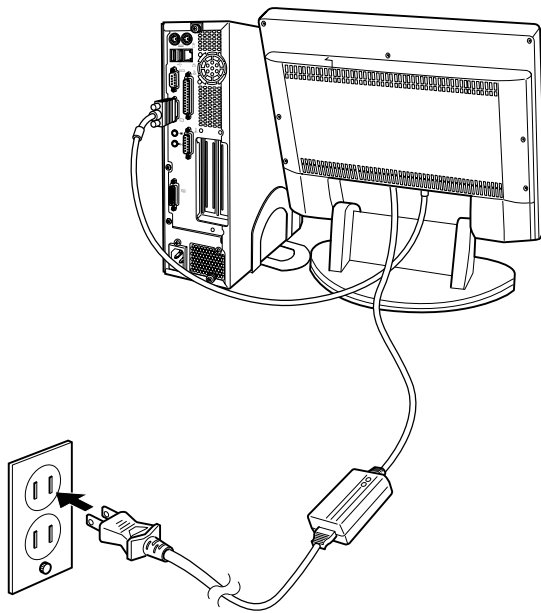
デジタル (DVI-D) 方式ディスプレイの場合 : DVI-Dコネクタ



制限

本機では、VGAコネクタとDVI-Dコネクタを同時に使用することはできません。

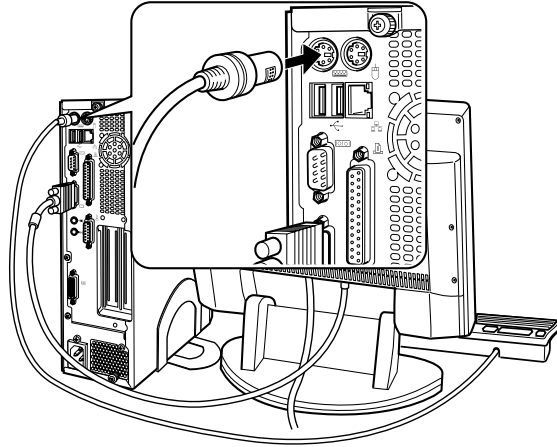
- 4** ディスプレイの電源コードをディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



キーボードの接続

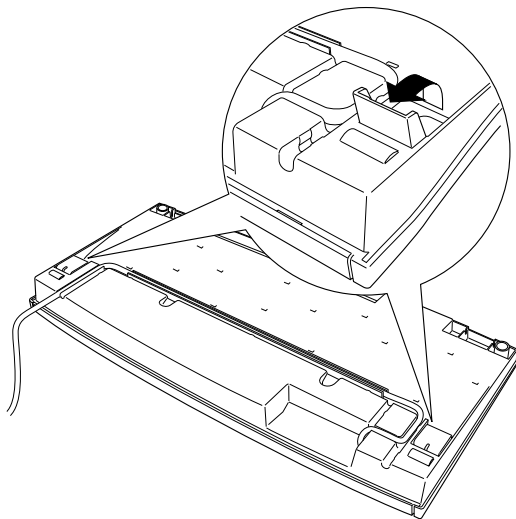
5

キーボードケーブルのコネクタを本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



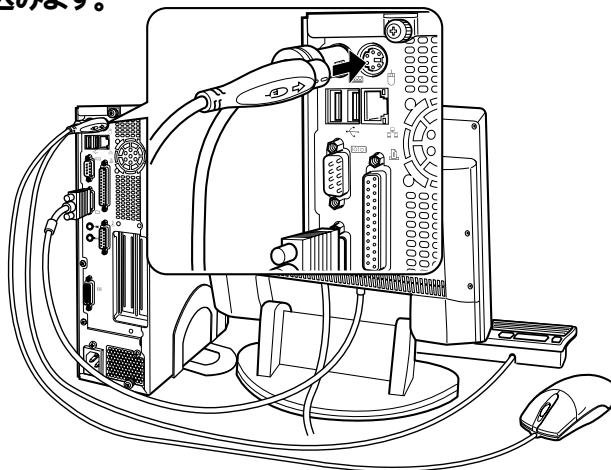
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こす。
- キーボードケーブルを、左右どちらかの底面の溝から引き出す。



マウスの接続

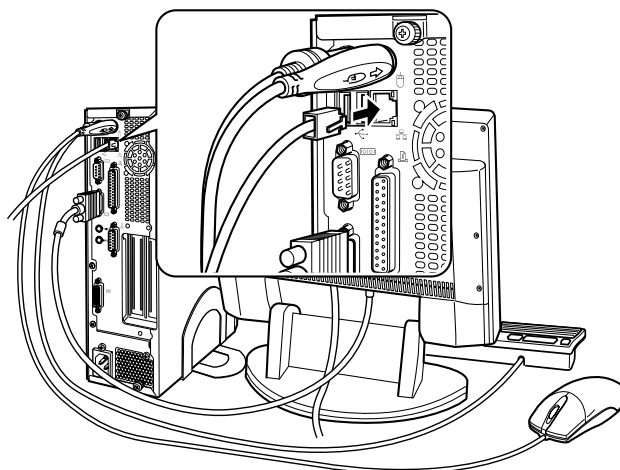
- 6** マウスケーブルのコネクタを本機のマウスコネクタ(緑色)に差し込みます。



ネットワークへの接続

- 7** ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワーク用ケーブルをネットワークコネクタに接続します。

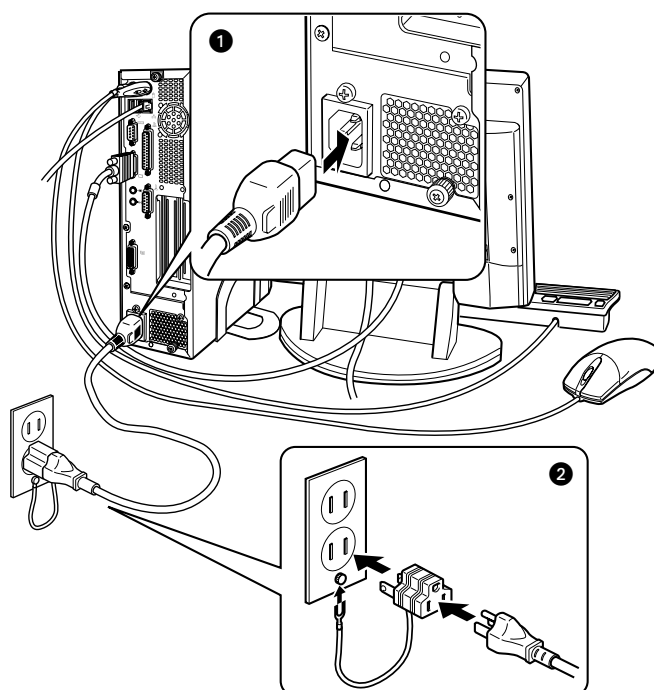
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



8

電源コードを接続します。

- ① 電源コードを本機の電源コネクタに接続します。
 - ② 添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、家庭用電源コンセントに接続します。
- アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



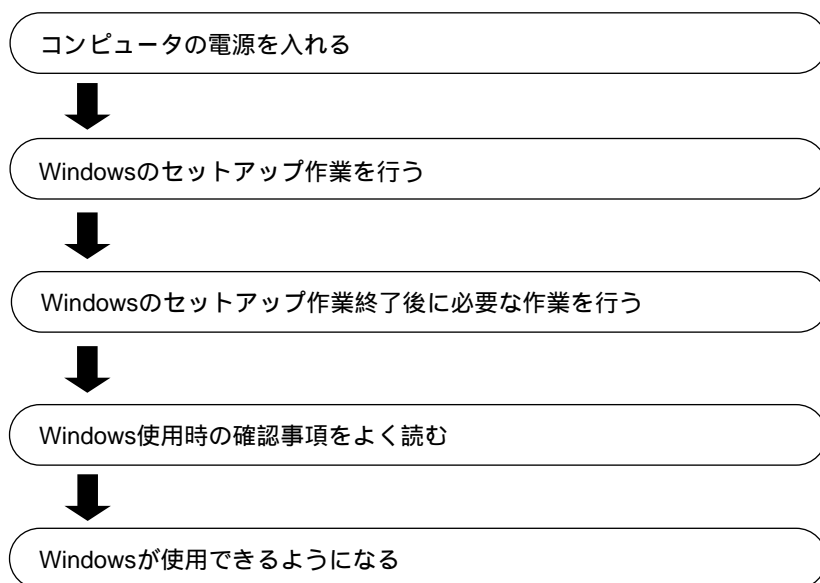
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、本機を購入後に、初めて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業を説明します。

Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。詳細は、次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの
セットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタも、マウスを動かした方向に動きます。

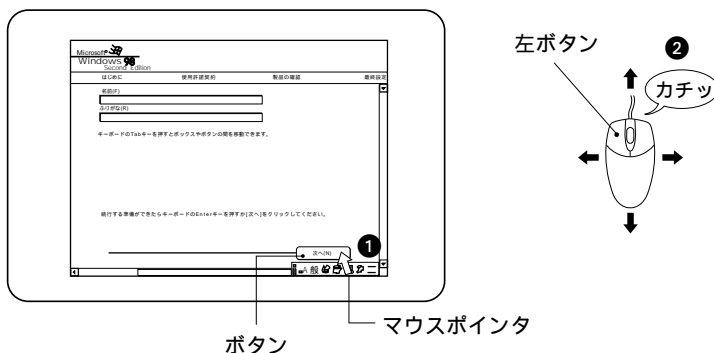


ボタンをクリックする

- ① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- ② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

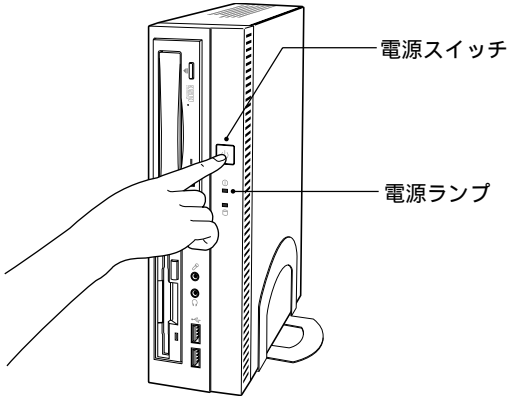



この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本機の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。

- 3 画面にコンピュータの仕様などが表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
 続けてWindowsのセットアップを行います。
 Windows98インストールモデル  p.20
 Windows2000インストールモデル  p.22
 WindowsXPインストールモデル  p.24

 電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、次の事項を確認してください。
 電源ランプが点灯しない場合
 電源コードが正しく接続されているか確認してください。
 画面に何も表示されない場合
 ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

Windowsのセットアップ

Windows 98 インストール モデル

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 98 セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

ようこそ



日本語入力システムMS-IMEの説明が表示されます。

情報の収集



ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
名前を入力後 を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

モデムの接続



FAXモデムボードを装着している場合に、この画面が表示されます。ここでは接続を行いませんので をクリックします。

使用許諾契約への同意



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

インストールの完了



Windowsが正常にインストールされました。 をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定




「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。

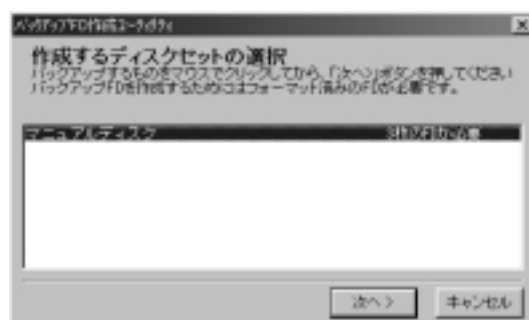
お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。

バックアップディスクの作成

次の画面に表示されたディスク名のバックアップディスクを作成します。

 p. 26「バックアップディスクの作成」



- 2 Windows98セットアップが終了すると、Windows98のデスクトップが表示されます。



続けてp.26「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows2000
インストール
モデル

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。コンピュータが自動的に再起動します。

- 2 Windows2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これでWindows2000セットアップは終了です。



続けてp.26「セットアップ終了後の作業」に移ります。

WindowsXP インストール モデル

WindowsXPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「WindowsXPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」にコンピュータ名を入力します。本機をネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ Administratorのパスワードを管理者の指示に従って入力します。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので、[省略]をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、[次へ]をクリックします。

コンピュータを使用するユーザーの指定



このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

WindowsXPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

WindowsXPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「WindowsXPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、WindowsXPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックするとWindowsのデスクトップが表示されます。

続けてp.26「セットアップ終了後の作業」に移ります。

セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成



制限

バックアップディスクを作成する前にHDD領域を削除したり、リカバリを実行したりしてしまうと、バックアップディスクが作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。「バックアップFD作成ユーティリティ」は、購入時にHDDにインストールされていても、「リカバリCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成するユーティリティです。


本機ของผู้ザーズマニュアルのPDFファイル

添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版

添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

 p.48「FDのフォーマット」

バックアップ ディスクの作成

起動方法

次の方法で、バックアップFD作成ユーティリティを起動します。

Windows98 インストールモデルの場合

Windowsセットアップ時に「バックアップFD作成ユーティリティ」が自動的に起動します。

Windowsのセットアップ中に作成しない場合は、[キャンセル]をクリックします。セットアップ終了後に作成するときには、[スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

Windows2000インストールモデルの場合

[スタート]-「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

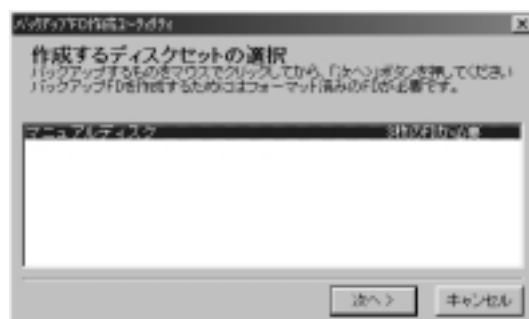
WindowsXPインストールモデルの場合

[スタート]-「すべてのプログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

作成方法

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」と表示されます。



- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。

- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。

- 4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されているすべてのディスクセットを作成します。

作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管しておいてください。




p.49「ライトプロテクト(書き込み禁止)」


Windows 98 起動ディスクの作成(Windows 98のみ)

Windows98起動ディスクは、Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

Windows98起動ディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意してください。

 p.48「FDのフォーマット」

- 1 [スタート] - 「 設定 」 - 「 コントロールパネル 」 - 「 アプリケーションの追加と削除 」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「 起動ディスク 」タブをクリックします。
- 3 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成] をクリックします。
- 4 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
作成した2枚のディスクには、「 Windows98起動ディスク1、2 」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管しておいてください。


 p.49「ライトプロテクト(書き込み禁止)」






セットアップブートディスクの作成(Windows2000のみ)

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。

セットアップブートディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを4枚用意してください。

 p.48「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
 CD ¥BOOTDISK (¥ は、スペースを意味します。)
 「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
 ① 次のとおり入力して  を押します。
 C:
 ② 次のとおり入力して  を押します。
 CD ¥ (¥ は、スペースを意味します。)
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
 MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら  を押します。
- 5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。

6

画面の指示に従い4枚目まで作成します。

作成したディスクには、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管しておいてください。



p.49「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器の説明書や、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

VirusScan for Windowsのインストール

購入時には、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。



『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

その他の設定

購入時にFAXモデムボードなどを装着している場合は、使用できるように設定を行います。



各装置に添付のマニュアル

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項の確認を行ってください。


Windowsの使用方法是、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意しましょう。

 p. 60「省電力機能を使う」

電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

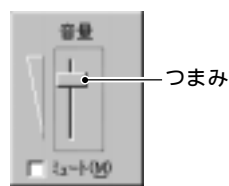
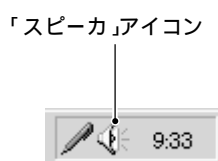
周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。




ボリュームコントロール

< Windows2000の場合 >

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。マウス、キーボードなどを操作するとともに戻ります。

 p.60「省電力機能を使う」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

Windows98インストールモデル : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000インストールモデル : C:\¥I386¥「I」はアルファベット)

WindowsXPインストールモデル : C:\¥WINDOWS¥I386¥「I」はアルファベット)

上記フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは、次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98 Windows2000	すべての領域 (Cドライブ)	FAT32
WindowsXP	すべての領域 (Cドライブ)	NTFS

デスクトップクリーンアップ(WindowsXPのみ)

WindowsXPの場合、セットアップを実行してから7日目以降にWindowsXPを起動すると、次のメッセージが表示される場合があります。

使用していないアイコンがデスクトップにあります。...

このメッセージはデスクトップ上に未使用のアイコンがあると表示されます。この場合はメッセージをクリックして「デスクトップクリーンアップウィザード」を起動してください。画面のメッセージに従って実行すると、不要なアイコンを選択してデスクトップ上から削除することができます。



「デスクトップクリーンアップウィザード」は、デスクトップ上で右クリックして「アイコンの整理」を選べば、いつでも実行できます。

ステップバイステップインタラクティブの実行について(WindowsXPのみ)

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行すると、WindowsXPの使い方の詳細がデスクトップ上で見るすることができます。「ステップバイステップインタラクティブ」の実行は、[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「Microsoftインタラクティブトレーニング」 - 「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

JAVA VMのインストール(WindowsXPのみ)

インターネットサイトを閲覧する場合に、サイトによっては「JAVA VMをインストールしてください。」といったメッセージが表示されることがあります。このようなサイトを閲覧するためにはJAVA VMが必要です。

JAVA VMのインストール手順は、次のとおりです。

- 1 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥JAVAVM¥MSJAVX86
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 4 「Microsoft VMをインストールしますか」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 「次の使用許諾契約をお読みください。……」と表示されたら、内容を確認し[はい]をクリックします。
- 6 「インストールを完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
- 7 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。……」と表示されたら、[はい]をクリックします。
Windowsが再起動するとJAVA VMのインストールは終了です。

JAVA VMの設定は、「Internet Explorer」を起動して次の場所で確認できます
「ツール」-「インターネットオプション」-「詳細設定」タブの「Microsoft VM」項目

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。

本機の電源を切っていてもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] - 「 Windowsの終了 」をクリックします。
- 2 「 Windowsの終了 」画面で「 電源を切れる状態にする 」にチェックが付いている状態で「 OK 」をクリックします。
Windows98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
Windows2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

WindowsXPの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsXPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-[終了オプション]をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。
WindowsXPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

WindowsXP 終了時の注意

WindowsXPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]-[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットを行う前に、作業中のデータをすべて保存してください。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows98 :[スタート]-「Windowsの終了」-「再起動する」を選択

Windows2000 :[スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

WindowsXP :[スタート]-[終了オプション]-[再起動]を選択

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

コンピュータの基本操作

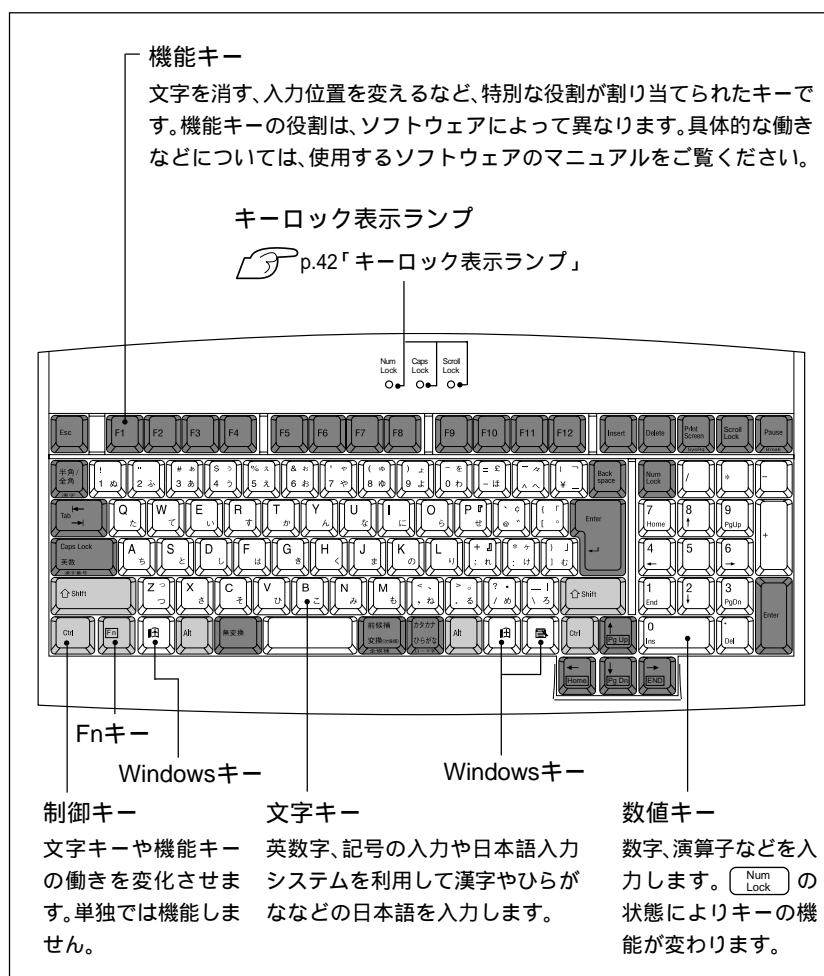
キーボード、マウスやFDDなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、106コンパクトキーボードです。
キーボードの接続方法については、p.8「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

106個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



キートップに印字された文字と実際に入力される文字が異なる場合もあります。

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップに印字された文字が入力されます。

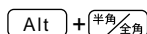
入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード

- ローマ字入力 : キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは次のキー操作で行います。

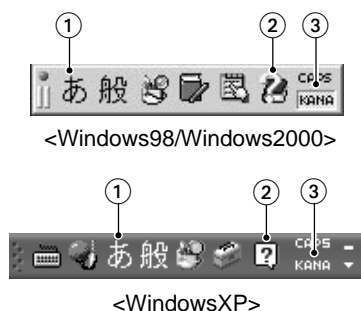


日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行います。



- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

記号の入力

インターネットのアドレスやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、直接入力モードで次のキーを押して入力します。

入力記号	入力方法
(コロン)	
(セミコロン)	
(ハイフン)	
(スラッシュ)	
@(アットマーク)	
(チルダ)	+
(アンダーバー)	+





キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプはキーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え : を押します。 点灯 : 数値を入力 消灯 : カーソルの位置を制御 数値キーの などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの大文字/小文字の切り替え 切り替え : + を押します。 点灯 : 大文字を入力 消灯 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え : を押します。

Fnキーと組み合わせて使うキー



次のキーは、**Fn**キーと組み合わせて使用することができます。

Fn + 	PgUp (Page Up) の役割をします。
Fn + 	Home の役割をします。
Fn + 	PgDn (Page Down) の役割をします。
Fn + 	End の役割をします。

Windowsキー









Windowsキー
の種類と機能

Windowsキーには2種類あり、それぞれ次の働きをします。

Windowsキー	機 能
	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。

Windowsキー
と組み合わせて
使うキー

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機 能
 + F1	Windowsのヘルプが表示されます。
 + E	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + F	「検索: 条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 + Ctrl + F	「検索: コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + M	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
Shift +  + M	最小化されているウィンドウをすべてもとのサイズに戻します。
 + R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + Tab	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

マウスを使う

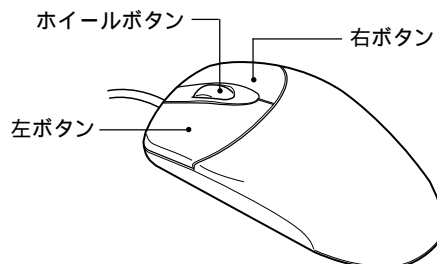
本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

ホイール機能を使用するには、専用の「マウスドライバ」のインストールが必要です。本機には、あらかじめ「マウスドライバ」がインストールされています。

マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態のマウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、「マウスのプロパティ」の各タブで行います。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

「マウスのプロパティ」の開き方は、デスクトップ右下のタスクバーに表示されている「マウス」アイコンをダブルクリックします。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする機器です。本機のFDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



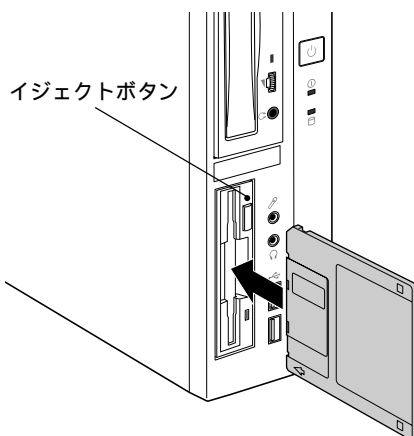
FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。FD内のデータが破損する恐れがあります。
コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

1

ラベル面を左側に向け、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。

本機が横置きの場合は、ラベル面を上側に向けて押し込みます。

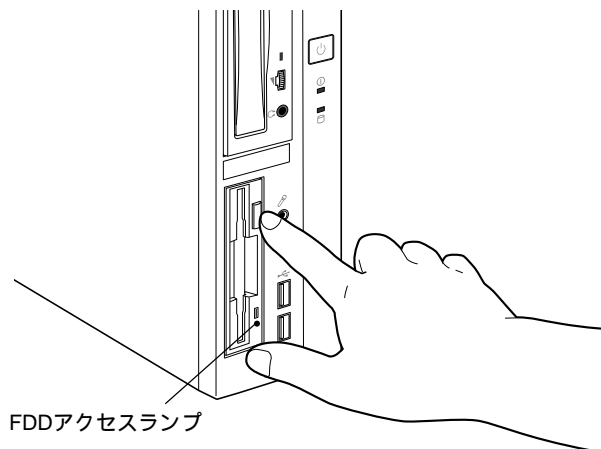


2

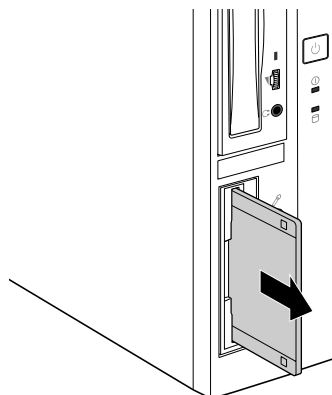
正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

- 1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

WindowsXPでは、720KBの記憶容量のFDをフォーマットすることはできません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。



Windows2000のフォーマットユーティリティでは、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

- 1 FDDにFDをセットして、「マイコンピュータ」を開きます。
Windows98/Windows2000の場合
デスクトップ上の「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
WindowsXPの場合
[スタート]-「マイコンピュータ」をクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK]をクリックします。

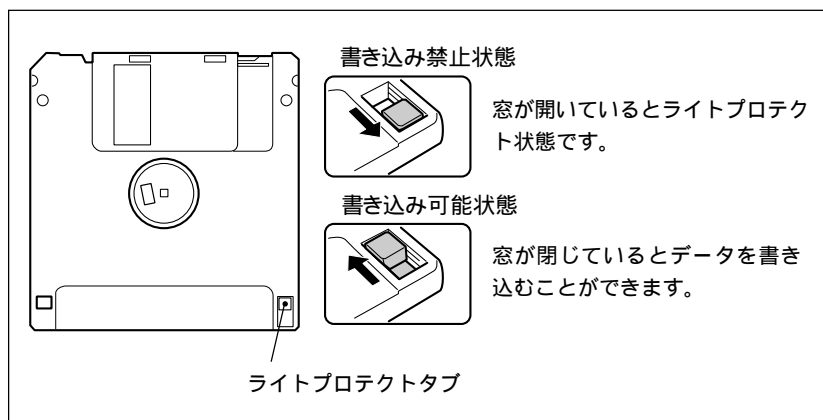
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。(Windows2000インストールモデルを除く)
- 5 [閉じる] をクリックします。

データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成 (バックアップ) しておきます。万ーデータを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト (書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくとう安心です。
ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



制限

誤った操作で重要なデータが破損しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶついたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDD内に重要なデータを作成したら、FDなどの別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98 Windows2000	すべての領域(Cドライブ)	FAT 32
WindowsXP	すべての領域(Cドライブ)	NTFS

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための機器です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

購入時のシステム構成により、CD-ROMドライブの代わりにCD-R/RWドライブなど別のドライブ装置が装着されていることもあります。メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方は、CD-ROMドライブと同じです。詳しい使用方は、各ドライブ装置に添付のマニュアルをご覧ください。

CD-ROMのセットと取り出し



制限

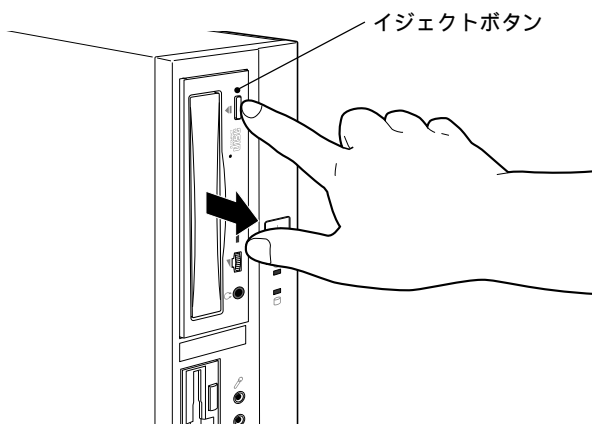
CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

本機が縦置きの場合、8cmのメディアは使用できません。

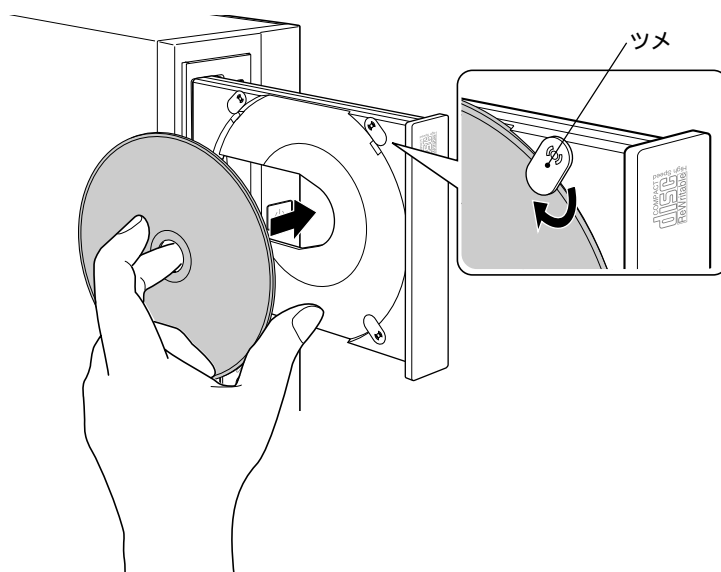
セット方法

1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



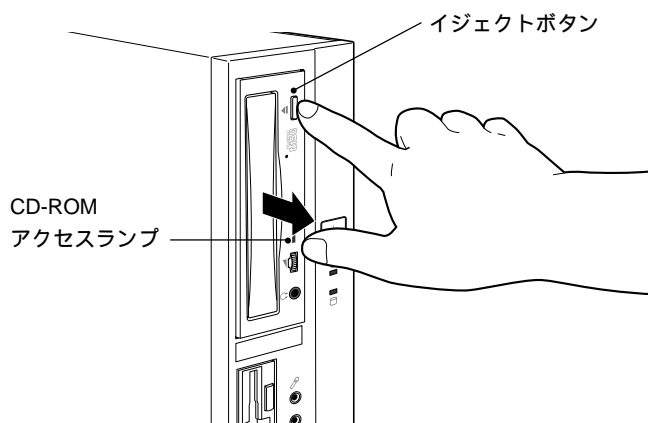
- 2 CD-ROMの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにセットします。
CD-ROMが落ちないように、ツメ(4個)で固定します。
本機が横置きの場合は、CD-ROMの印刷面を上側に向けてセットします。
ツメの操作は必要ありません。



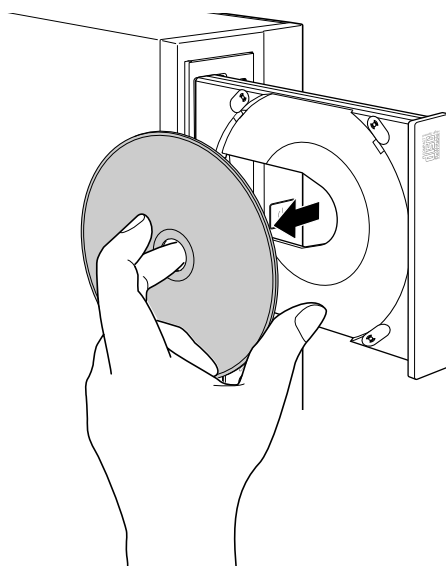
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 ツメをもとに戻し、CD-ROMをディスクトレイから取り出します。本機が横置きの場合は、ツメの操作は必要ありません。



- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

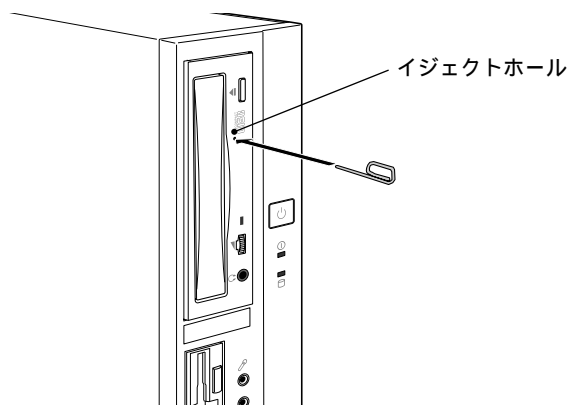
強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合

CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

ディスプレイ機能を使う


本機のメインボード上には、ディスプレイ機能が搭載されています。解像度の設定などの基本的な操作について説明します。



参考

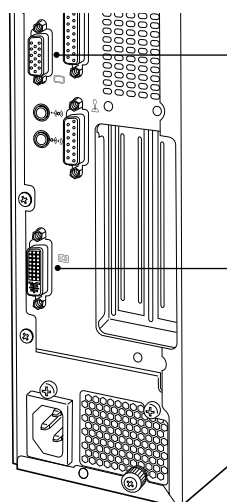
Safe(セーフ)モードでの起動

本機のディスプレイ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safe(セーフ)モードで起動して再設定を行ってください。

 p.110「ディスプレイの不具合」

使用できる ディスプレイ

本機で使用できるディスプレイの仕様およびコネクタの位置は、次のとおりです。



VGAコネクタ

VGA入力端子を装備しているCRTディスプレイやLCDディスプレイなどとアナログ(VGA)ケーブルで接続します。

DVI-Dコネクタ

DVI入力端子を装備しているLCDディスプレイとデジタル(DVI-D)ケーブルで接続します。(DVI-Iケーブルは接続できません。)



制限

VGAコネクタとDVI-Dコネクタを同時に使用することはできません。

解像度や表示色を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。
変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

1

次の手順で設定画面を表示します。

Windows98/Windows2000の場合

- ① [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「画面」アイコンをダブルクリックします。
- ② 「画面のプロパティ」画面が表示されたら、「設定」タブをクリックします。

WindowsXPの場合

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップの表示とテーマ」 - 「画面解像度を変更する」をクリックします。

2

設定したい解像度と表示色に変更します。

お使いのWindowsにより「画面の色」、「画面の領域」という表示は異なります。



< Windows2000の場合 >

3

項目を変更したら、「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色



本機では、下記以外の設定を選択することができますが、それらの設定に関しては保証していません。

接続しているディスプレイによっては正常に表示できない解像度や表示色もあります。

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

Windows98/
Windows2000
の場合

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			

WindowsXP
の場合

表示色 解像度	中(16ビット)	最高(32ビット)
800 × 600 ドット		
1024 × 768 ドット		
1280 × 1024 ドット		

ディスプレイの設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。次の場所で、接続しているディスプレイの設定を行ってください。

Windows98/Windows2000 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブ

WindowsXP : [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」-[詳細設定]-「モニタ」タブ

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となる恐れがあります。

内蔵モノラル スピーカ

本機には、モノラルスピーカが内蔵されています。このため、外部スピーカなどを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。スピーカの音量調節は次の方法で行います。

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

「スピーカ」アイコン



つまみ

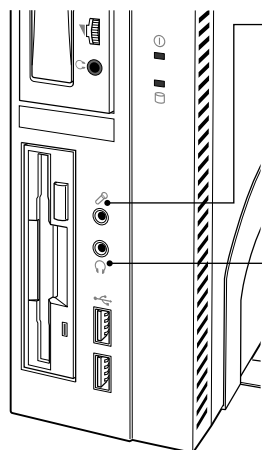
ボリュームコントロール

< Windows2000の場合 >

外部オーディオ機器などの接続

本機の前面と背面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

前面側




マイク入力コネクタ


マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

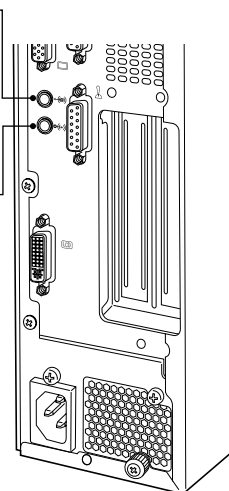
ヘッドフォン出力コネクタ

ヘッドフォンやイヤフォンを接続して、本機からの音声を出力するためのコネクタです。ヘッドフォンなどを接続すると、内蔵スピーカは自動的に無効になります。

背面側

ライン出力コネクタ 
外部スピーカなどを接続して、音声
を出力するためのコネクタです。

ライン入力コネクタ 
カセットデッキなどのオーディオ
機器の音声出力端子と接続して、
音声を本機に入力するためのコネ
クタです。入力した音声は、本機の
サウンド機能を使って、録音や再
生を行うことができます。



制限

ライン出力コネクタに外部スピーカなどを接続しても、本機のアンプ内蔵スピーカの音を切ることはできません。

音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。

サウンドユーティリティは、次のフォルダに登録されています。サウンドユーティリティの使い方は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

Windows98/Windows2000 : [スタート] - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテインメント」

WindowsXP : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテインメント」

省電力機能を使う

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



省電力機能の設定は、「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。

次の状態でスタンバイまたは休止状態に入ると、正常に復帰できない、接続が切断される、誤動作するなどの現象が起こることがあります。

- ・ NetWareサーバーを利用している状態やNetBEUIを使用してネットワークに接続している状態
- ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたままの状態
- ・ サウンド機能を使って録音・再生しているとき
- ・ 電源管理機能との相性が良くない周辺機器を接続し動作させている場合
- ・ アプリケーションを起動した状態または動作中

このような場合は、下記のいずれかの対処方法を取ってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする(Netwareサーバーを利用している場合のみ)
- ・ 再起動する
- ・ 省電力モードを無効にする

省電力機能の種類


省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプは緑色に点滅します。BIOSの設定(ACPI Suspend to RAM)により、消費する電力量などが異なります。

 p.63「スタンバイの動作状態」

休止状態(Windows2000/WindowsXP)

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態 (Windows2000/WindowsXP)	消 灯
電源切断時	消 灯

省電力機能を実行する前の確認事項

省電力機能を実行する前に、次の事項を確認してください。

休止状態を有効にする

Windows2000インストールモデルの場合、休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックして、「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。



WindowsXPインストールモデルの場合は、あらかじめ「休止状態を有効にする」にチェックが付いています。

スタンバイの動作状態

「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を、「Enabled」または「Disabled」に設定することにより、スタンバイの動作状態が異なります。

「Powerメニュー画面」-「ACPI Suspend to RAM」

購入時には、「Enabled」に設定されています。

「Enabled」設定時

「Enabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、本機のメモリ以外の電源が切れます。そのため電力はほとんど消費されません。また、通常モードにすぐに復帰できます。

ただし、スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

「Disabled」設定時

「Disabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、不必要な電源が切れます。電力消費は通常モードの約半分になります。通常モードへの復帰には、十数秒かかります。

スタンバイ実行時の制限事項

「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」に設定してスタンバイを実行する際には、次のような制限事項があります。

スタンバイが正常に動作しない場合は、相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。

「Disabled」に設定してスタンバイを実行してください。

スタンバイが正常に動作する場合であっても、「Disabled」に変更してスタンバイを実行すると、「Enabled」に設定し直したときに正常に動作しなくなる可能性があります。

正常に動作させるためには、「Enabled」にしてリカバリを実行してください。

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。万一正常に復帰できない場合に備え、省電力機能を実行する前に使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

② 直ちに実行

席を外するときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

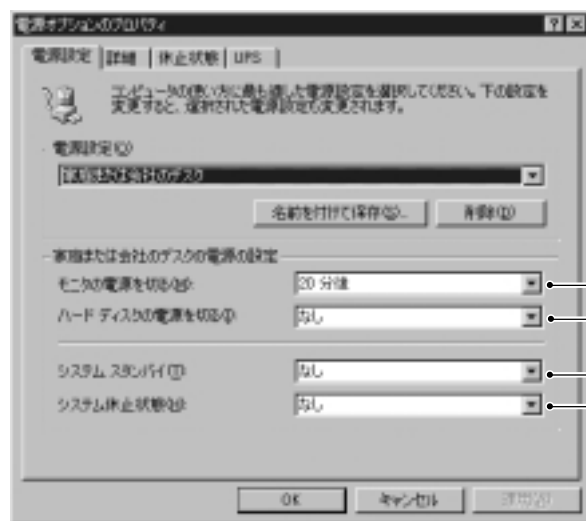
Windows98 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「電源の管理」

Windows2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「電源オプション」

WindowsXP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各省電力モードに移行します。

Windows2000の場合

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態を強制的に実行します。

スタートボタンから実行する

Windows98 の場合 : [スタート] - 「 Windowsの終了 」 から選択実行します。

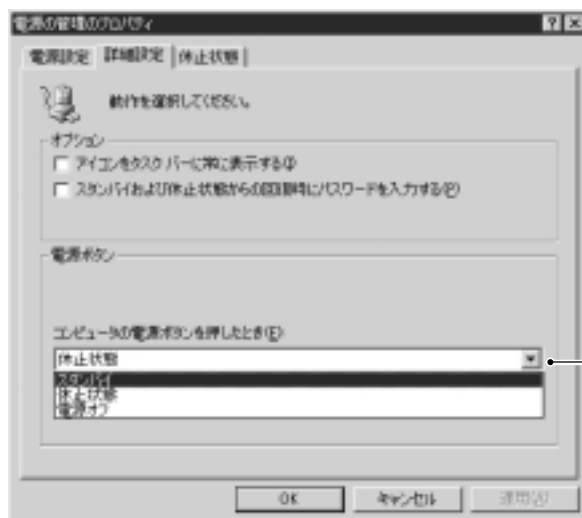
Windows2000 の場合 : [スタート] - 「 シャットダウン 」 から選択実行します。

WindowsXP の場合 * : [スタート] - [終了オプション] から選択実行します。

* 「 コンピュータの電源を切る 」 画面で [Shift] キーを押すと、「 スタンバイ 」の代わりに「 休止状態 」を選択できるようになります。

電源スイッチを押して実行する

電源スイッチを押したときに、どのモードに入るかをあらかじめ「 詳細設定 」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Windows2000の場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM:Enabled)	緑点滅	電源スイッチを押します。
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM:Disabled)		キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
休止状態	消 灯	電源スイッチを押します。

その他の機能

ネットワーク機能を使う

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバー)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためにはプロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器の説明書や、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



制限

NetWareサーバーを利用している場合や NetBEUI を使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWare のみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。


パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setup ユーティリティ」で変更してください。

 p.98 「Advanced メニュー画面」

シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.98「Advancedメニュー画面」

USBコネクタを使う

本機には、USBコネクタが前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入っている状態で行えます。接続する周辺機器によっては、デバイスドライバが必要です。

また、USB機器の接続を行った際に、タスクバーに次のようなアイコンが表示された場合は、取り外しを行う前にWindows上で終了処理が必要です。

詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをお読みください。



< Windows2000の場合 >

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。購入時には、「VirusScan for Windows」はインストールされていないのでインストールを行ってください。

『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

データファイルの更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をお読みください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付のユーティリティCDに登録されています。

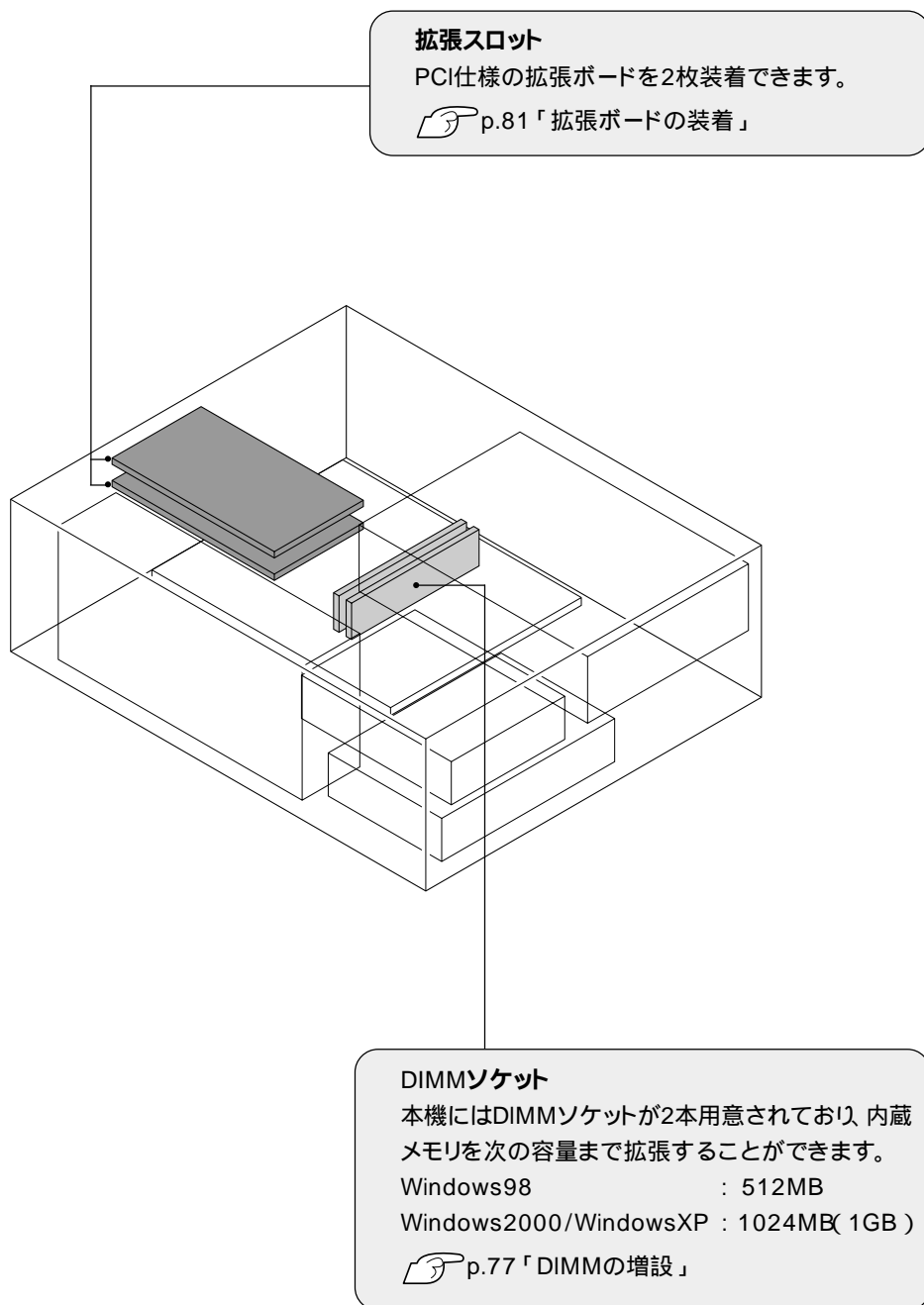
システムの拡張

コンピュータにDIMMや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

本機は、内蔵メモリ(DIMM)や拡張ボードを増設・交換して機能を拡張することができます。

購入時のシステム構成により、実際に拡張できるDIMMや拡張ボードの数は異なります。



作業時の注意

コンピュータ内部にDIMMや拡張ボードを装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



拡張ボードやDIMMの取り付け・取り外しは、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

拡張ボードやDIMMの取り付け・取り外しを行うときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や拡張ボードに添付のマニュアルの指示に従って、正しく装着してください。

本機および接続している周辺機器の電源は必ず切ってください。

本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。

作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。

DIMM、拡張ボードの端子部やコネクタ部に触れないでください。

本体カバーの取り外し・取り付け



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

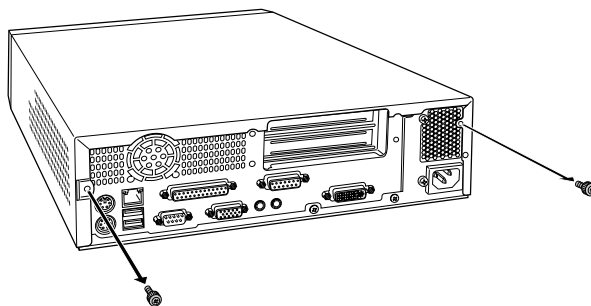
本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部にDIMMや拡張ボードを装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。

本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。作業は、本機を横置きにして行います。

取り外し

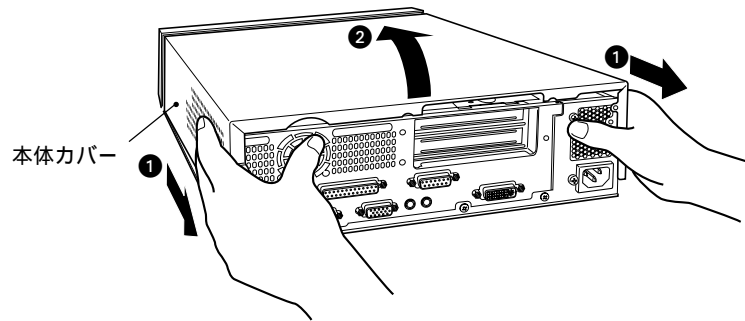
- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体背面のネジ(2本)を外します。



4

本体カバーを取り外します。

- ① 本体カバーを背面側にスライドさせます。
- ② 本体カバーを矢印のとおりに持ち上げ、外します。



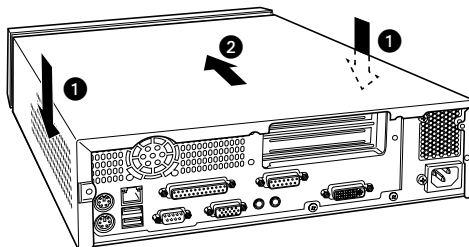
取り付け

1

本体カバーを取り付けます。

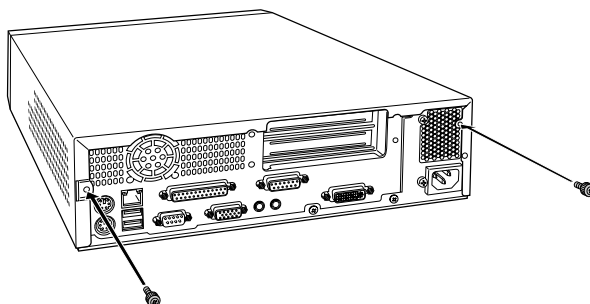
① 本体カバーを本体側面両側にはめ込みます。

② 本体カバーを前面側にスライドさせます。



2

ネジ(2本)で本体カバーを固定します。



DIMMの増設

本機で使用可能なDIMMの仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

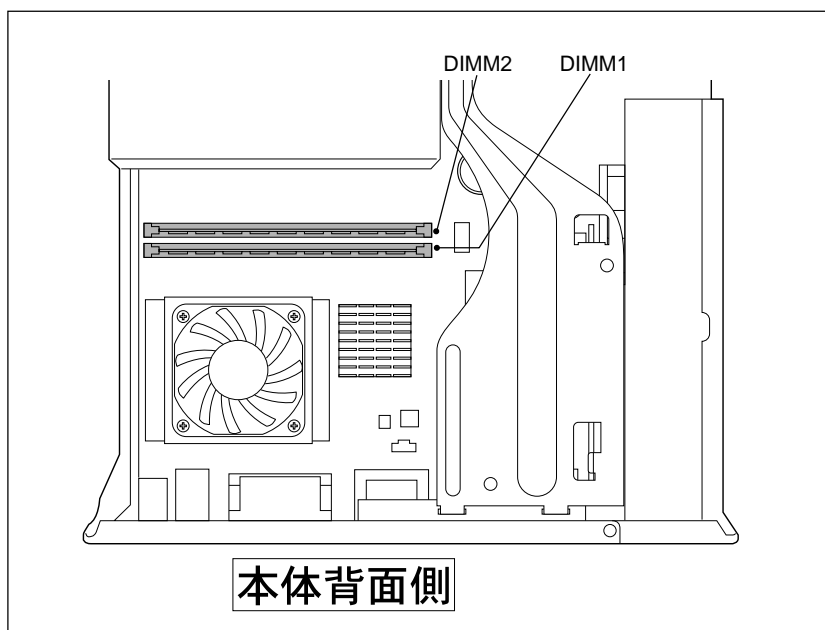
DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されています。DIMMソケットにDIMMを装着することによりメモリ容量を増やすことができます。本機に搭載可能な最大メモリ容量は次のとおりです。

Windows98 : 合計512MB

Windows2000/WindowsXP : 合計1024MB(1GB)

DIMMはDIMM2ソケットから取り付けます。購入時には、DIMM2ソケットにあらかじめDIMMが取り付けられています(容量は、購入時のシステム構成により異なります)。



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。下記の仕様と一致するDIMMを当社のオプションリストより選択してください。

168ピンDIMM(Dual Inline Memory Module)

3.3V SDRAM (Unbufferd SDRAM)


メモリ容量 128MB、256MB、512MB

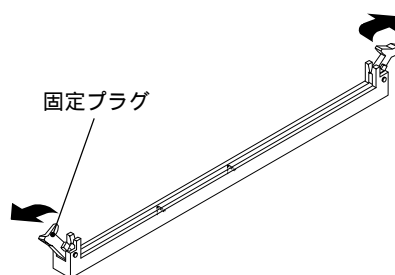
ECC機能非対応

PC133規格対応

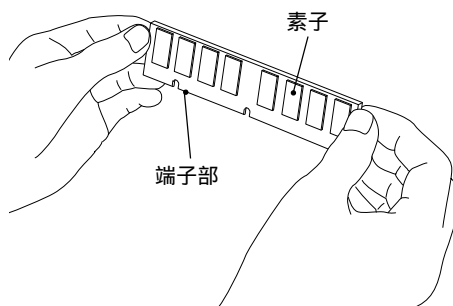
DIMMの取り付け・取り外し

作業は、コンピュータを横置きに行います。

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.74「本体カバーの取り外し」
- 4 DIMMソケットの固定プラグを開きます。

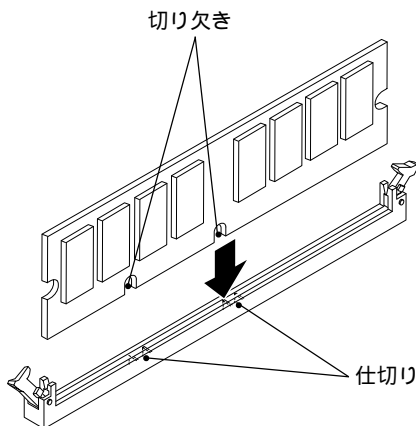


- 5 DIMMを静電気防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。




6 DIMMソケットにDIMMを差し込みます。

- ① DIMMの2つの切り欠きをDIMMソケット内の2つの仕切りに合わせます。
- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。




7 本体カバーを取り付けます。

 p.76「本体カバーの取り付け」

8 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

9 メモリ容量を確認します。

- ① コンピュータの電源を入れたら **Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.89「BIOS Setupユーティリティの操作」

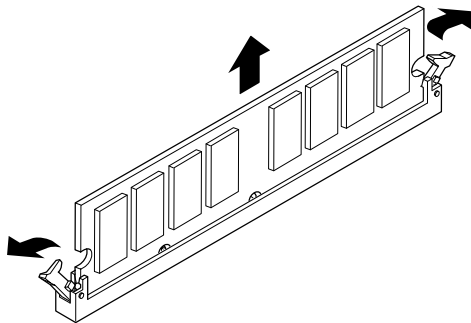
- ② 「Mainメニュー画面」の「Installed Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。

装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

DIMMの外し方

1

DIMMの両端を固定している固定プラグを開き、静かに取り外します。



2

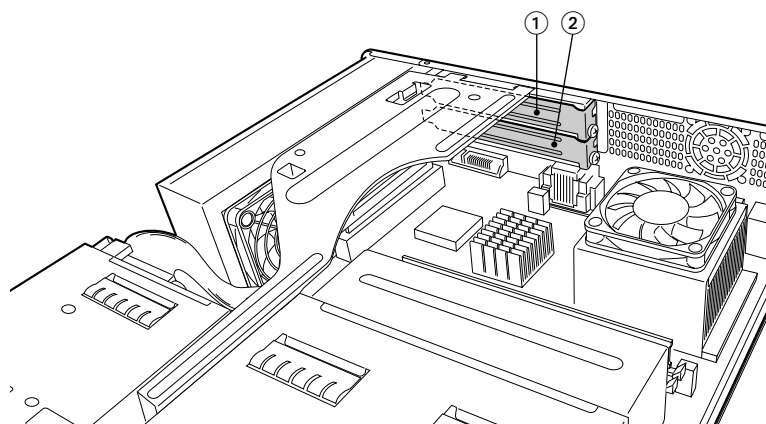
取り外したDIMMは、静電気防止袋に入れて大切に保管しておいてください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードの取り付け方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には、拡張スロットが2つあります。拡張スロットの仕様は、次のとおりです。




スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
①	PCI	ボード長:130mm、ボード幅:107mmまで
②	PCI	ボード長:130mm、ボード幅:65mmまで

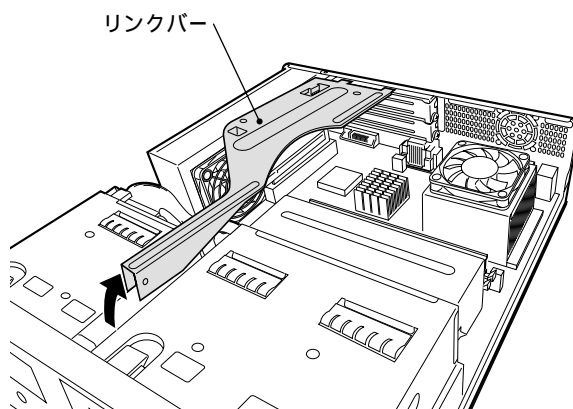
拡張ボードの取り付け・取り外し

拡張ボードを装着する前に拡張ボードに添付のマニュアルを必ずお読みください。作業は、コンピュータを横置きに行います。

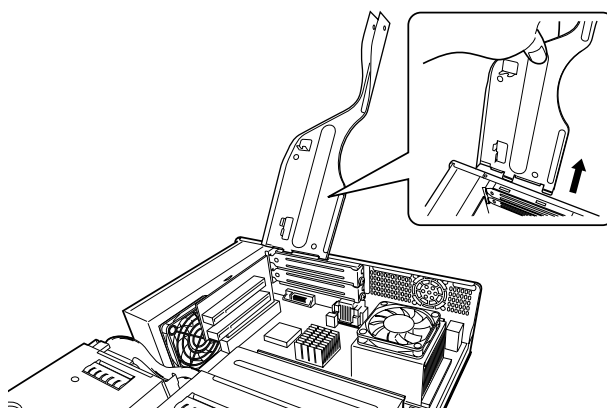
取り付け

拡張ボードの取り付け方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.74「本体カバーの取り外し」
- 4 リンクバーを取り外します。
 - ❶ リンクバーをドライブベイ側から持ち上げます。このとき周辺の部品やケースの角などで手を切らないように気をつけてください。

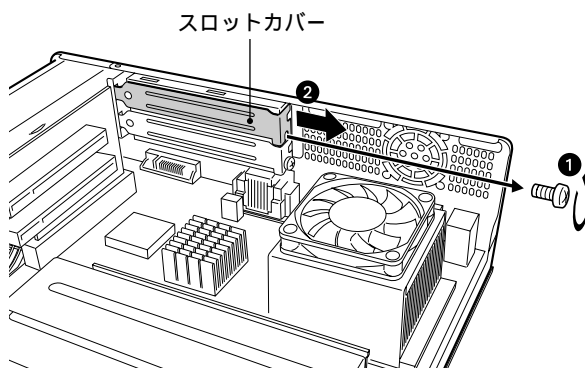


- ② リンクバーを背面側へ持ち上げます。作業の邪魔になる場合は、リンクバーを取り外します。



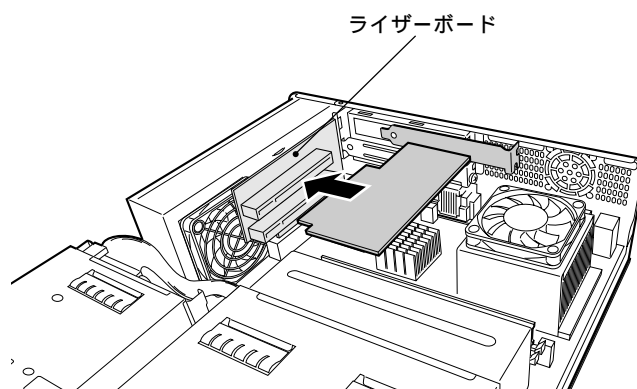
5 スロットカバーを取り外します。

- ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
 - ② スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。
- 外したスロットカバーは、大切に保管しておいてください。

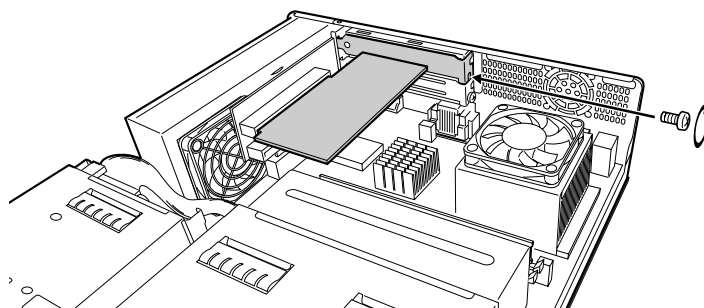


6 拡張ボードを差し込みます。

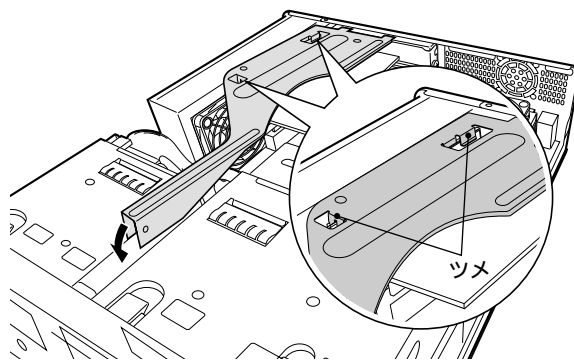
拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、反対側からライザーボードを固定するように手でささえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。




7 拡張ボードをネジで固定します。



- 8 リンクバーを取り付けます。
このとき、リンクバーの2つのツメがライザーボードを挟んでいることを確認してから、リンクバーを押し込みます。

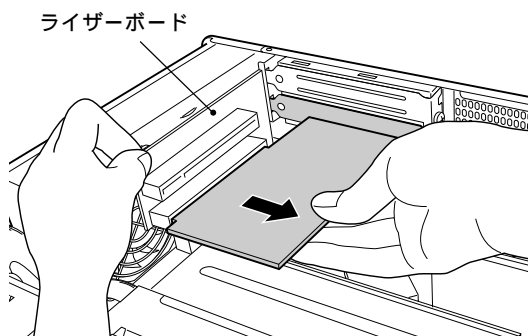


- 9 本体カバーを取り付けます。
 p.76「本体カバーの取り付け」

- 10 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

拡張ボード の外し方

- 1 拡張ボードを固定しているネジを外します。
- 2 ライザーボードを手で固定しながら、拡張ボードをゆっくり引き抜きます。



- 3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSの設定を 始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。

BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合

パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。



p.126「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。



p.101「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）を実行してください。



p.92「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

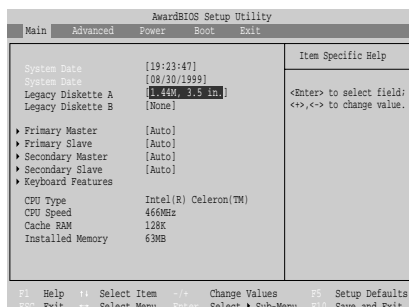
1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。

2 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの **[Delete]** を押します。

Press to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **[Delete]** を押さないとWindowsが起動します。



3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

[F1] を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

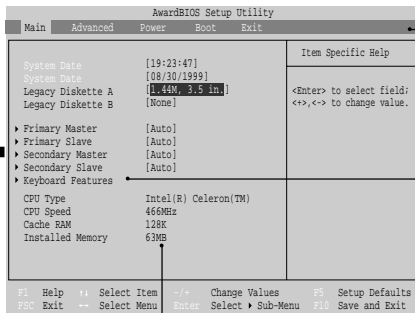
BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。操作中に画面の表示が遅いときがありますが、不具合ではありません。操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択
- ② 「設定項目」を選択
- ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.94をご覧ください。

<メニュー画面>



① 「処理メニュー」を選択

→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 「設定項目」を選択

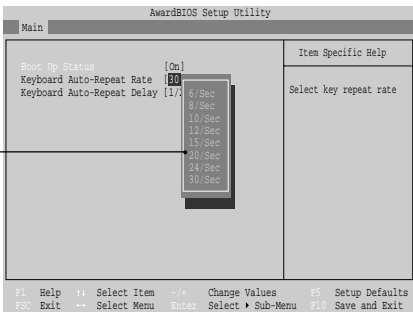
↑ ↓ で変更します。

③ 「設定値」を選択

黒字表示されていると、設定変更可能です。
+ / - を押すと値が変わります。
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

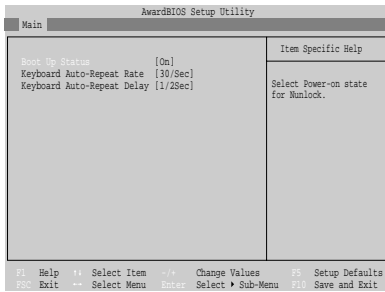
<選択ウィンドウ>

選択ウィンドウ内の設定値を
↑ ↓ で変更し、← で設定します。






















▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと<メニュー画面>に戻ります。

キー操作一覧

キー	操作できる内容
 ,  + 	ヘルプを表示します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「EXITメニュー画面」を表示します。 ・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
	<p>「Load Setup Defaults」を表示します。全設定項目の値を、初期値に変更できます。</p> <p> p.92「設定値をもとに戻すには」</p>
	<p>「Exit Saving Changes」を表示します。変更した設定値を保存して終了できます。</p> <p> p.93「BIOS Setupユーティリティの終了」</p>
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup
Defaults
(初期値に戻す)

BIOS Setupユーティリティのすべての設定値を、BIOSの初期値に戻します。

- 1 を押す、または「Exitメニュー画面」-「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[Yes] を選択して を押します。

Discard
Changes
(前回保存した
設定値に戻す)

変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exitメニュー画面」-「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes] を選択して を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

Exit Saving
Changes
(変更した内容を
保存し、終了する)

- 1 **F10** を押す、または「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

- 2 変更した設定値を保存して終了する場合は **Yes** を選択し、**↵** を押します。

Exit Discarding
Changes
(変更した内容を
保存せずに、終了する)

- 1 「Exitメニュー画面」-「Exit Discarding Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

- 2 変更した設定値を保存せずに終了する場合は **Yes** を選択し、**↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面 : 日付、時間、パスワードなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : I/O関係の動作設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : パワーマネージメント(省電力)に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番設定を行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

は初期値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。 None : FDD未接続 1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD

Primary Master		IDE装置の仕様を設定します。
Primary Slave		
Secondary Master	Type	IDE装置の仕様を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。
Secondary Slave		
(IDE装置の設定) * 表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	*Cylinders	HDDのシリンダ数を自動的に表示します。
	*Head	HDDのヘッド数を自動的に表示します。
	*Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を自動的に表示します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を自動的に表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を自動的に表示します。
	*PIO Mode	HDDの転送モード(PIO)を自動的に表示します。
	*ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを自動的に表示します。
Keyboard Features		キーボードに関する設定を行います。
	Boot Up NumLock Status (起動時の NumLock の設定)	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。
Supervisor Password User Password		コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。 初期値は「 Disabled 」です。 (p.96「 Passwordの設定」)
*Installed Memory		本機に搭載しているメモリの容量を自動的に表示します。
*BIOS Revision		本機のBIOSのバージョンを自動的に表示します。

Passwordの設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができません。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があります。この機能は「Mainメニュー画面」の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ 起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	×
	User Password	Disabled		
3	Supervisor Password	Disabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled		

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。


*2: 次の項目を指します。



「Mainメニュー画面」- 「System Time」, 「System Date」, 「User Password」

「Exitメニュー画面」- 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」

パスワードの 設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの
大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入
力し、 を押します。
同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。


Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変
わります。




登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パス
ワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。
万一、パスワードを忘れた場合は、CMOS RAMを初期化することでパスワードをクリ
アすることができます。ただし、CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情
報は、すべてクリアされます。

 p.129「CMOS RAMの初期化」

パスワー ドの削除


- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を
押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に
変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*CPU Internal Frequency (CPUのスピードの設定)	本機に搭載しているCPUの周波数を自動的に表示します。
I/O Device Configuration	I/O ポートなどに関する設定を行います。
Onboard AC97 Audio Controller (オーディオ機器の設定)	メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Onboard Serial Port 1 (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺機器で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します ECP+EPP : EPP+ECP モードに設定します。
ECP DMA Select (パラレルポートのDMA設定)	パラレルポートの DMA チャンネルを設定します。動作モードに Normal、EPP を選択した場合は、表示されません。 1 : DMA チャンネル 1 を使用します。 3 : DMA チャンネル 3 を使用します。
Onboard Game Port (ゲームポートの設定)	メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 200H - 207H 208H - 20FH : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI I/O (MIDIの設定)	メインボードの MIDI で使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 330H - 331H 300H - 301H : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI IRQ (MIDI IRQ信号の設定)	メインボードの MIDI で使用する IRQ 信号を設定します。 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15
PCI Configuration	デバイスに関する設定を行います。
Onboard LAN Controller	ネットワーク機能の有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。

Powerメニュー画面

ACPI Suspend to RAM (スタンバイの動作状態の設定)	ACPI Suspend to RAMを使用するかどうかを設定します。  p.63「スタンバイの動作状態」 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
APIC Mode (APICモードの設定)	初期値 [Disabled] のまま使用します。
Power Up Control (起動方法の設定)	起動する方法や条件を設定します。
Wake up On LAN (LANからの起動設定)	電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。ただし、分電盤やOAタップなどにより、本機の電源供給をいったん切断して再度供給した場合は、無効となります。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
Automatic Power Up (自動電源投入の起動設定)	設定した日付と時間に応じて、自動的に起動します。 Disabled : 設定しません。 Everyday : 設定した時間に、毎日起動します。 By Date : 設定した日付と時間に、起動します。

Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、起動するドライブの順番を設定します。

初期設定は、[1.Removable Device][2. IDE Hard Drive][3.ATAPI CD-ROM][4.Other Boot Device]です。

ドライブを選択して **+** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **-** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled /Legacy Floppy
2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続しているHDDの型番
3. ATAPI CD-ROM	5.25型ドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続している5.25型ドライブの型番
4. Other Boot Device	SCSI装置から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled /SCSI Boot Device

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A	None 1.44M 3.5 in		None 1.44M 3.5 in	
Keyboard Features				
Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
I/O Device Configuration				
Onboard AC97 Audio Controller	Disabled	Auto	Disabled	Auto
Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled		3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled	
Onboard Parallel Port	Disabled	378H/IRQ7 278H/IRQ5	Disabled	378H/IRQ7 278H/IRQ5
Parallel Port Mode	Normal EPP ECP ECP+EPP		Normal EPP ECP ECP+EPP	
ECP DMA Select	1	3	1	3
Onboard Game Port	Disabled	200H-207H 208H-20FH	Disabled	200H-207H 208H-20FH
Onboard MIDI I/O	Disabled	330H-331H 300H-301H	Disabled	330H-331H 300H-301H
Onboard MIDI IRQ	3 4 5 7 9 10 11 12 14 15		3 4 5 7 9 10 11 12 14 15	
PCI Configuration				
Onboard LAN Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
ACPI Suspend to RAM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Power Up Control				
Wake up On LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Automatic Power Up	Disabled	Everyday By date	Disabled	Everyday By date

Boot メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
()Removable Device	LegacyFloppy	Disabled	LegacyFloppy	Disabled
()IDE Hard Drive	Disabled	()	Disabled	()
()ATAPI CD-ROM	Disabled	()	Disabled	()
()Other Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。



p.8「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。




p.89「BIOS Setupユーティリティの操作」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。


現象が発生する直前にスタンバイを実行していた場合は、一度電源を切ってからもう一度入れ直してください。

 p.107 「省電力機能の不具合」

起動時の自己診断テスト終了後(Windowsの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.121 「警告メッセージが表示されたら」

起動時にエラーメッセージが表示される場合には、メッセージ内容を確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.121 「警告メッセージが表示されたら」

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

 p.92 「設定値をもとに戻すには」

BIOSを初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.129 「CMOS RAMの初期化」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストで異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


現象


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.96 「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.40 「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.129 「CMOS RAMの初期化」

現象 起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsが起動しない。




- ・ DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・ Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・ Operating system not found

確認と対処 「起動ディスク」などシステムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.114「HDDの不具合」


システムが登録されていないFDがFDDにセットしてある場合は、FDを抜いてください。

現象 ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処  +  +  を押してリセットします。


リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.36「電源の切り方」

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.126「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。

確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

現象 ACPI Suspend to RAMを「Enabled」にしてスタンバイを実行しているが、正しく機能しない。


確認と対処 スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。「Disabled」にしてスタンバイを実行してください。

「Enabled」設定時のスタンバイが正常に動作していた場合に、設定値を「Disabled」に変更してスタンバイを実行すると「Enabled」に設定し直したときに正常に動作しなくなる可能性があります。正常に動作させるには、「Enabled」にしてリカバリを実行してください。

現象 省電力モードから復帰できない。



確認と対処 「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」にして、スタンバイを実行しているときは、電源スイッチを押して本機を復帰させてください。


 p.66「復帰方法」

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合


現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。 キーを押してオンの状態にします。

 p.40「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。


確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.8「コンピュータの設置」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。


アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.36「電源の切り方」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 日本語キーボードドライバの特性により、キートップに印字されている一部の文字は入力できません。

 p.40「キーボードを使う」

Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。次のキーボードが選択されているか確認します。

Windows98 : 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)

Windows2000/WindowsXP : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

確認方法は、次のとおりです。

Windows98の場合 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「システム」アイコンをダブルクリック

Windows2000の場合 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「キーボード」アイコンをダブルクリック

WindowsXPの場合 : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「キーボード」をクリック


マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処


マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.8「コンピュータの設置」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。


 p.36「電源の切り方」

現象

Windows上やアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.8「コンピュータの設置」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.124「マウスのお手入れ」

ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。


確認と対処

ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイの接続コードが正しく接続されているか確認します。本機で利用できるディスプレイの接続コネクタは次のとおりです。

アナログ (VGA) 方式ディスプレイの場合 : VGAコネクタ

デジタル (DVI-D) 方式ディスプレイの場合 : DVI-Dコネクタ

 p.55「ディスプレイ機能を使う」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。


ピープ音が鳴った場合は、起動時の診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してみてください。

 p.60「省電力機能を使う」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。Safe(セーフ)モードで起動し直してみてください。

Windows98をSafeモードで起動する

Windows98をSafeモードで起動する方法は、次のとおりです。Safeモードは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**Ctrl** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**↵** を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

Windows2000をセーフモードで起動する

Windows2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常のモードでWindowsが起動します。
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

WindowsXPをセーフモードで起動する

WindowsXPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、WindowsXPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**F8** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」と表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

FDDの不具合

現象

FDDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]


使用しているFDDが、本機で利用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

別のFDDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDDに異常があることが考えられます。

別のFDDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」-「Mainメニュー画面」-「Legacy Diskette A」が「1.44 M, 3.5 in.」となっているか確認してください。

「起動ディスク」などのシステムが組み込まれているFDDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 FDに書き込みできない。


確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.49「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。


確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
 p.94「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが破損しているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、リカバリを実行してください。リカバリを実行しても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処 起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
 p.100「Bootメニュー画面」

CD-ROMドライブの不具合

現象

セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。

本機に添付されているCD-ROM(「リカバリCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player(CDプレーヤー)」が標準で添付されています。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

CDをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処


セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、☒をクリックして、一度画面を閉じます。その後、「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、「開く」を選択します。

現象

音楽用CDの音が聞こえない。


確認と対処

内蔵スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

 p.58「サウンド機能を使う」

外部スピーカを使用している場合は、本機背面のライン出力コネクタに正しく接続しているか、またボリュームの調節が適切か確認します。

CD-ROMドライブのオーディオコネクタと、メインボードのCD-1コネクタを、CDオーディオケーブルで接続しているか確認します。

 p.155「コンピュータ内部のケーブル接続」

アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処 アプリケーションソフトの起動に必要なシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。


アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処 起動時のメモリチェックやWindows上では、メモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Mainメニュー画面」-「Installed Memory」で総メモリ容量を確認してください。

 p.89「BIOS Setupユーティリティの操作」

DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象 インストール中に「WindowsCD」を要求されたが、「WindowsCD」を持っていないのでインストール作業が進まない。

確認と対処 「ファイルのコピー元」に次のフォルダを指定してください。

Windows98の場合 : C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000の場合 : C:\¥I386¥「I」はアルファベット)

WindowsXPの場合 : C:\¥WINDOWS¥I386¥「I」はアルファベット)

現象 インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処 本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。CD-ROMドライブのドライブレターは、「マイコンピュータ」で確認できます。

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象 拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処 増設した機器が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した機器のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいことを確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張ボードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しないことがあります。詳細は拡張ボード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

[デバイスマネージャ]に表示されている各デバイスのプロパティを開いて、IRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認できます。

[デバイスマネージャ]の開き方は次のとおりです。

- Windows98の場合
[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「システム」 - 「デバイスマネージャ」タブ
- Windows2000の場合
[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「システム」 - 「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]
- WindowsXPの場合
[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「システム」 - 「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]

周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張ボードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているかどうか確認してください。

プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。


内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音が聞こえない。

確認と対処

内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている可能性があります。音量を調整してください。

 p.58「サウンド機能を使う」

音量を調整しても音が聞こえない場合は、内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF0000H-FFFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、内蔵リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してみてください。p.126「リチウム電池の交換」
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してみてください。 p.126「リチウム電池の交換」
CMOS CHECKSUM ERROR	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	BIOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。BIOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDDの初期化ができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。



付 録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、
HDDを購入時の状態に戻す方法や仕様
などについて説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。



警告

小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

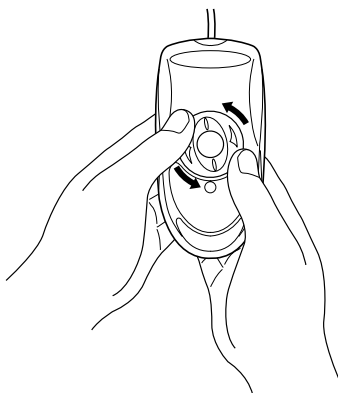
クリーニングは本機の電源を切ったあと、マウスケーブルを本機背面から取り外した状態で行います。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



- 2 マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



制限

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した値が何もしないのになってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032 または同等品)



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



拡張ボードの取り付け・取り外しや内蔵リチウム電池の交換などは、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。





本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電気が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

作業は、本機を横置きに行います。

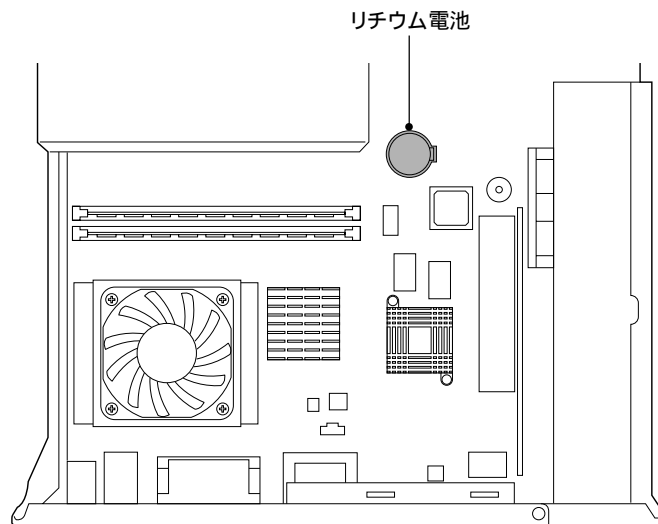
リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上
放置します。

- 2 本体カバーを取り外します。
 p.74「本体カバーの取り外し」

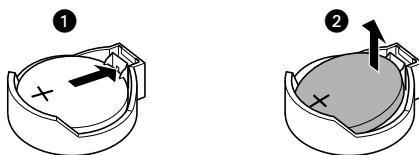
- 3 リンクバーを取り外します。
 p.82「拡張カードの取り外し・手順4」

- 4 リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

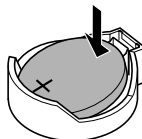


- 5 必要に応じて、作業の妨げになる拡張ボードを取り外します。


- 6 リチウム電池を抜きます。
- ① 電池ホルダの留め金を押します。(電池ホルダの形状は、機種により違う場合があります。)
 - ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。




- 7 新しいリチウム電池を取り付けます。
- 刻印面 (+ 側) が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。正しく取り付けられると、「カチッ」と音が鳴ります。




- 8 リンクバーを取り付けます。
- 手順5で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付け直してから、リンクバーを取り付けます。

 p.85「拡張ボードの取り外し・手順8」

- 9 本体カバーを取り付けます。
-  p.76「本体カバーの取り付け」

- 10 コンピュータを使用できるように、本機背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

- 11 コンピュータの電源を入れます。[Delete] を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.89「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 12 [F5] を押して「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。

- 13 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。

- 14 「Exitメニュー画面」 - 「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。



電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや、感電・火災の原因となります。



拡張ボードの取り付け・取り外しやCMOS RAMの初期化などは、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。





CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

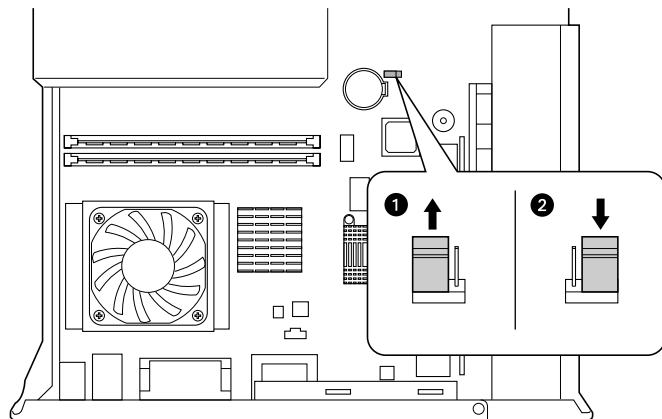
 p.101「BIOSの設定値」

本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電気が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。






作業は、本機を横置きに行います。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上
放置します。
- 2 本体カバーを外します。
 p.74「本体カバーの取り外し」
- 3 リンクバーを取り外します。
 p.82「拡張ボードの取り外し・手順4」
- 4 メインボード上のジャンプスイッチCLEAR_CMOSを次のように変更し
ます。
ジャンパクリップは、ピンセットなどを使って抜き差ししてください。その
際、メインボードに傷を付けないように注意してください。
 - ① 本体背面側から見て左側2本のピンにジャンパクリップが差し込まれ
ています。このジャンパクリップを抜き取ります。
 - ② ジャンパクリップを本体背面側から見て右側2本のピンに差し込み
ます。



- 5 このまま5秒間以上、放置します。

- 6 ジャンプスイッチCLEAR_CMOSの設定をもとに戻します。
ジャンパクリップを本体背面側から見て左側2本のピンに差し込み直します。
- 7 リンクバーを取り付けます。
 p.85「拡張ボードの取り外し・手順8」
- 8 本体カバーを取り付けます。
 p.76「本体カバーの取り付け」
- 9 電源コードを接続します。
- 10 コンピュータの電源を入れます。「CMOS checksum error-Defaults loaded」とメッセージが表示されます。を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.89「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 11 を押して「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
- 12 設定値を必要に応じて変更します。
- 13 「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

HDDを購入時の状態に戻す

本機は、HDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因で、Windowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなったりした場合などに、購入時の状態に戻すことで問題が解決することがあります。




制限

弊社製以外のBIOSを使用すると、リカバリの実行ができなくなります。

弊社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

HDDを購入時の状態に戻したあとは、バックアップディスクを作成することができません。購入時の状態に戻す前に、必ずバックアップディスクを作成します。

 p.26「バックアップディスクの作成」

必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

Windowsと各種デバイスドライバが登録されているCD-ROMです。

Windows2000用は2枚組、WindowsXP用は3枚組になっています。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD

VirusScan for Windowsが登録されているCD-ROMです。

バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD


Windowsのセットアップ時に作成したFDです。作成していない場合は、リカバリを実行する前に必ず作成してください。

そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。


HDDを購入時の状態に戻す順番

次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。

リカバリの実行 ( p.136)




「リカバリCD」を使用して、HDDのフォーマット作業およびWindowsと一部のデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。

Windowsのセットアップとセットアップ終了後の作業 ( p.137)



購入時に行った「Windowsのセットアップ」とセットアップ終了後に行った各種設定などをもう一度行います。

マウスドライバのインストール ( p.138)



「マウスドライバCD」を使用して、マウスドライバのインストールを行います。

その他の作業 ( p.139)

必要に応じて、その他の作業を行います。

HDDを購入時の状態に戻す場合の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の事項を確認してから作業を始めてください。



本機で使用している「リカバリCD」は、Windowsとドライバ類を同時にインストールします。Windowsのみをインストールすることはできません。

インストール全般 本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機購入後に周辺機器を取り付けた場合やBIOSの設定を変更した場合は、購入時のシステム構成に戻してからリカバリを実行することをおすすめします。

ドライブ名 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD


Cドライブ : HDD

Dドライブ : CD-ROMドライブ

本章の説明では、本機に装着されているドライブを「CD-ROMドライブ」として記載しています。

CD-R/RWドライブなど別のドライブ装置が装着されている場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブ装置に読み替えてください。

リカバリの実行 リカバリを実行すると、バックアップディスクを作成することができなくなります。バックアップディスクを作成していない場合は、リカバリ実行前に、バックアップディスクを作成してください。

 p. 26「バックアップディスクの作成」

リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。

HDDにCドライブのほかにDドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にDドライブ以降の重要なデータもFDなどにバックアップしておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。

「リカバリCD」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。

リカバリ実行中は、「リカバリCD」を抜かないでください。

リカバリCDは、次のファイルシステムを使用してHDDを購入時の状態に戻します。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると同じファイルシステムでWindowsがインストールされます。

Windows98 : FAT32ファイルシステム

Windows2000 : FAT32ファイルシステム

WindowsXP : NTFS

デバイスドライバ のインストール

デバイスドライバのインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。このような場合には、「リカバリCD」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。


Windows98 : C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows2000 : C:¥I386(「I」はアルファベット)

WindowsXP : C:¥WINDOWS¥I386(「I」はアルファベット)

リカバリの実行

リカバリの実行は、次の手順で行います。

- 1 「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、CD-ROMの起動順位を1番に変更します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、**[Delete]** を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.127「BIOS Setupユーティリティの起動」
 - ② **[→]** を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。
 - ③ **[↓]** を押して「ATAPI CD-ROM」を選択し、**[+]** を数回押し、「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。
- 2 次のCDをCD-ROMドライブにセットします。

Windows98 : リカバリCD
Windows2000/WindowsXP : リカバリCD Disc1
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
 - ① **[→]** を押して、「Exitメニュー画面」に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で **[←]** を押します。
 - ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、「Yes」が選択されている状態で **[←]** を押します。
- 4 コンピュータが起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、「続ける」をクリックします。
- 5 「警告」画面が表示されます。「はい」をクリックします。
- 6 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、15分程かかります。
Windows2000/WindowsXPの場合は、「Please insert the next CD」と表示されたら「リカバリCD Disc2/Disc3」をセットします。

- 7 「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD」を抜いて「再起動」をクリックし、コンピュータを再起動します。
WindowsXPで再起動画面が表示されずに、コマンドプロンプト(P: ¥ >)が表示された場合は **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、再起動してください。
- 8 コンピュータの再起動時に「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、手順1で変更した「ATAPI CD-ROM」の起動順位をもとに戻します。
- 9 コンピュータが起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。
続けてWindowsのセットアップおよびセットアップ終了後の作業に移ります。
プリンタや拡張ボードなどを接続している場合に、デバイスドライバのインストールを要求する画面が表示されたら「キャンセル」をクリックします。
セットアップ後に各装置に添付のマニュアルを参照して、デバイスドライバのインストールを行ってください。

Windowsのセットアップとセットアップ終了後の作業

購入時に行った「Windowsのセットアップ」および「セットアップ終了後の作業」とは一部作業内容が異なりますのでご確認ください。

セットアップ時の手順について p.20「Windowsのセットアップ」の手順に記載している作業のうち、次の作業は、再セットアップ時には表示されません。

Windows98 : 「日時と時刻の設定」、「お知らせ」、「バックアップディスクの作成」

セットアップ終了後の作業内容について p.26「セットアップ終了後の作業」に記載している次の作業は、必要に応じて行ってください。購入時に行った「Windowsのセットアップ」後に一度行っているため、通常は必要ありません。

Windows98 : Windows98起動ディスクの作成

Windows2000 : セットアップブートディスクの作成

マウスドライバのインストール

マウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると、セットアッププログラムが自動的に起動します。
「設定言語の選択」と表示された場合は、[OK]をクリックします。
- 2 「インストール先の選択」と表示されます。[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「…コンピュータを再起動する必要があります。」と表示されたら、「…コンピュータを再起動します」にチェックが付いた状態で [完了]をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。」と表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。



参考

セットアッププログラムが自動的に起動しない場合は
[スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に次のとおり
入力し [OK]をクリックします。

D:\SETUP

そのほかの作業

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧ください。



必要なドライバやユーティリティは、お使いになるシステム構成によって異なります。たとえば、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAX モデムボードを使用する場合 : FAX モデムドライバ

SCSI ボード・SCSI 機器を使用する場合 : SCSIドライバやSCSIユーティリティなど

USB 対応機器を使用する場合 : 機器に添付のドライバ

プリンタを使用する場合 : プリンタに添付のドライバ

ユーザーズマニュアルのインストール

『ユーザーズマニュアル』（本書）のPDFファイルをインストールします。インストールには、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDを使用します。

- 1 「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

SBSIの
インストール
(WindowsXP
のみ)

WindowsXPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ(SBSI)」をインストールします。
「ステップバイステップインタラクティブ」のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc3」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK] をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら「名前」と「会社名」を入力して[次へ] をクリックします。
- 7 入力した「名前」と「会社名」の確認の画面が表示されます。入力した情報が正しければ、[はい] をクリックします。インストールが開始されます。
入力に間違いがあった場合は、[いいえ] をクリックして、手順6の画面で情報を入力し直してください。
- 8 「セットアップが完了しました……」と表示されたら、[完了] をクリックします。
- 9 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 10 「名前」に次のとおり入力して、[OK] をクリックします。
D:¥QFE¥Q307460
- 11 コマンドプロンプト画面が一瞬表示して閉じます。これで「ステップバイステップインタラクティブ」のインストールは終了です。

HDD領域の変更

HDD領域の変更は、ドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいときなどに行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。

MS-DOS領域の概要

MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合に必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

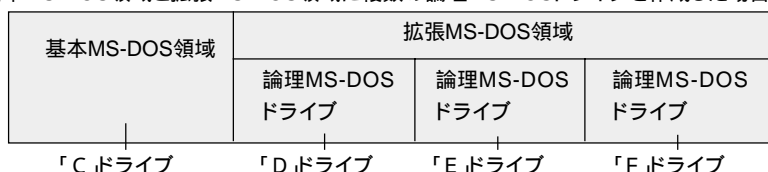
基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



WindowsXP の場合

WindowsXPインストールモデルの購入時のHDD領域はNTFSでフォーマットしているため「非MS-DOS領域」になります。

非MS-DOS領域は、Windowsの「ディスクの管理」で変更できます。「ディスクの管理」ではプライマリパーティションと拡張パーティションが作成できます。

1つのHDDに作成できるパーティションは、プライマリパーティションを4つ、またはプライマリパーティションを3つと拡張パーティションを1つまでです。

プライマリパーティションは1つのドライブとして使用し、拡張パーティションには論理ドライブを作成します。論理ドライブはいくつでも作成することができます。

「ディスクの管理」に関する詳しい説明は「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

本機でHDD領域の設定を変更する場合は、いったんFDISKコマンドでFAT32の領域を作成する必要があります。詳しくは、p.152「基本MS-DOS領域の作成」をご覧ください。

HDD領域変更の手順

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を作成しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめFDなどにバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

Windows98/ Windows2000 の場合

MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域の削除は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で行います。

MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域の作成は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で行います。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

WindowsXP
インストールモデル
の場合

既存領域の削除



既存の領域を削除します。WindowsXPがインストールされている領域は「非MS-DOS領域」です。

MS-DOS領域の作成



WindowsXPをインストールする領域と拡張MS-DOS領域をFDISKコマンドを使用して作成します。ここで作成した拡張MS-DOS領域はWindowsXPの拡張パーティションになります。

WindowsXPのインストール



p.170「HDDを購入時の状態に戻す」を参照して、WindowsXPをインストールします。

論理ドライブの作成

拡張パーティションにWindowsXPの「ディスクの管理」で論理ドライブを作成します。

WindowsXPをインストールする領域は、領域作成時にFAT32ファイルシステムに設定されていますが、WindowsXPをインストールするときにNTFSに再設定されます。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは「リカバリ CD」(Windows2000/WindowsXPの場合は「リカバリCD Disc1」)に登録されています。

大容量ディスク サポートとは


FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。FAT32ファイルシステムでは、どんな容量のHDD領域でも1つのHDDとして使用できます。

Windows98/Windows2000インストールモデルのCDドライブは、FAT32ファイルシステムに設定しています。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行すると、FAT32ファイルシステムに設定されます。

領域をアクティブ にする

FDISK コマンドを使用して、1 台のHDD に基本MS- DOS 領域 (Cドライブ) と拡張MS- DOS 領域 (Dドライブ以降) を作成する場合は、必ずCドライブ (Windows をインストールする領域) をアクティブに設定します。アクティブ領域に設定しないとWindows をインストールすることができません。

アクティブ領域の設定は、「基本MS- DOS 領域の作成」の手順に従って行ってください。

 p.147「基本 MS- DOS 領域の作成」


64GB以上の HDDを使用 している場合

64GB以上のHDDでFDISKコマンドを実行する場合は、次の点に気を付けてください。

- ・ ディスク (HDD) 容量が間違っ表示されることがありますが、実際には正しく認識されています。
- ・ 領域の作成時に容量を設定する場合は、容量ではなく全容量に対する割合 (%) を入力してください。容量を入力すると正しく領域を作成することができません。

コンピュータの起動

次の手順でコンピュータを起動し、コマンドプロンプトを表示させます。


- 1 「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、CD-ROMドライブの起動順位を1番に変更します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、**[Delete]** を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.89「BIOS Setupユーティリティの起動」
 - ② **[→]** を数回押して、「Bootメニュー画面」を表示します。
 - ③ **[↓]** を押して「ATAPI CD-ROM」を選択し、**[+]** を数回押し、「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。
- 2 リカバリCDをCD-ROMドライブにセットします。
Windows98 : リカバリCD
Windows2000/WindowsXP : リカバリCD Disc1
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
 - ① **[→]** を押して、「Exitメニュー画面」に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で **[↵]** を押します。
 - ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、「Yes」が選択されている状態で **[↵]** を押します。
- 4 コンピュータが起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックします。
- 5 画面左上に次のコマンドプロンプトが表示されます。
Windows98/Windows2000 : A:¥>
WindowsXP : P:¥>

HDD領域の変更作業がすべて終了したら、忘れずに「BIOS Setupユーティリティ」でCD-ROMの起動順位をもとに戻しておいてください。

HDD領域の変更 (Windows 98 / Windows 2000)

既存領域の削除


次の手順でMS-DOS領域を削除します。

- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.145「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト (A:¥>) が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y / N)」と表示されます。 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。
- 4 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。
基本MS-DOS 領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS 領域」「基本MS-DOS 領域」の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS 領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS 領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)
 を押してから を押します。
- 6 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。
- 7 削除する領域のボリュームラベルを入力し、 を押します。
画面上部に表示されている領域の情報から「ボリュームラベル」を確認してください。「ボリュームラベル」が空白の場合は何も入力せずに を押します。


- 8 確認メッセージが表示されたら、 を押して を押します。
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 9 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合は、下記「基本MS-DOS領域の作成 手順5」に移ります。
- 10 を押してFDISKを終了します。
- 11 コマンドプロンプト (A:¥>)が表示されます。
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

基本MS-DOS 領域の作成

次の手順でMS-DOS領域を作成します。



- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.145「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト (A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 または を押して を押します。
通常は、「Y」を選択します。
- 4 処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。

- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。次のメッセージが表示されます。

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…
- 6 または のどちらを入力するかにより、次のように作業が異なります。
 を入力して を押す場合
基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから + + を押して、コンピュータを再起動します。
再起動後にリカバリを実行します。
 p.132「HDDを購入時の状態に戻す」

 を入力して を押す場合
 を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを%で入力し を押します。続いて手順7に進みます。
- 7 基本 MS-DOS 領域が作成されます。 を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 8 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。を押してから を押します。
- 9 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。を押してから を押します。
- 10 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

拡張MS-DOS
領域と
論理MS-DOS
ドライブの作成

- 1 1 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 2 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを%で入力して を押します。
- 1 4 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 5 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理MS-DOSドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを%で入力し、を押します。
- 1 6 すべての拡張 MS-DOS領域に論理MS-DOSドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 7 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されます。
再起動後に、Dドライブ以降(Windowsをインストールしない領域)のフォーマットを行います。
 p.150「MS-DOS領域のフォーマット」
基本MS-DOS領域(Cドライブ)は、リカバリを実行して、Windowsをインストールします。
 p.132「HDDを購入時の状態に戻す」

MS-DOS 領域の フォーマット







Dドライブ以降のフォーマットを行います。Cドライブは、リカバリ実行時にフォーマットされるため必要ありません。

64GB以上のHDDをフォーマットする場合の注意

64GB以上のHDDでFORMATコマンドを実行すると、誤ったディスク容量が表示されることがありますが、実際には正しくフォーマットが行われています。フォーマット終了後には、正しい容量が表示されます。

フォーマットの手順


フォーマットの手順は次のとおりです。

- 1 「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。
 p.145「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)
FORMAT D: (はスペースを意味します。)
Dドライブ以降にもドライブがある場合は、すべてのドライブをフォーマットします。
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、
 を押して  を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。
必要のない場合は、そのまま  を押します。コマンドプロンプト(A:\>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

HDD領域の変更 (WindowsXP)

既存領域の削除

ここではWindowsXPがインストールされている領域を削除します。WindowsXPの「ディスクの管理」で作成したパーティションは「ディスクの管理」で削除してください。

- 1 「リカバリCD Disc1」を使ってコンピュータを起動します。
 p.145「コンピュータの起動」
- 2 コマンドプロンプト (P:¥>) が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N) 」と表示されます。 を押して を押します。
- 4 「すべてのNTFSパーティションを大容量ドライブとして取り扱いますか ? (Y/N) 」と表示されます。 を押して を押します。
- 5 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 6 「4. 非MS-DOS 領域を削除」を選択します。 を押してから を押します。
- 7 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。
- 8 確認メッセージが表示されたら、 を押して を押します。
WindowsXPがインストールされているNTFS領域が削除されます。
- 9 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
領域を作成する場合はp.152「基本MS-DOS領域の作成 手順4」に移ります。

10

を押してFDISKを終了します。

11

コマンドプロンプト (P:¥>) が表示されます。

これでWindowsXPがインストールされていた領域の削除は終了です。

基本MS-DOS 領域の作成

ここでは、HDD 領域を分割して、WindowsXPをインストールする領域と拡張MS-DOS領域を作成する方法について説明します。

HDD領域を分割する場合は、FDISK コマンドを使用して、あらかじめ「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」を作成しておく必要があります。「基本MS-DOS領域」は、WindowsXP をインストールする「プライマリパーティション」に、「拡張MS-DOS領域」は、「拡張パーティション」になります。

「基本MS-DOS領域」は、FAT32 ファイルシステムで作成されますが、リカバリ実行後は、NTFSに設定変更されます。



制限

HDDを分割するときは、拡張MS-DOS領域を必ず作成してください。拡張MS-DOS領域を作成しないで、未設定領域のままリカバリを実行すると、HDD領域が分割されず、1パーティションとして設定されてしまいます。

1

「リカバリCD」を使ってコンピュータを起動します。



p.145「コンピュータの起動」

2

コマンドプロンプト (P:¥>) が表示されたら、次のとおり入力して を押します。

FDISK

3

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。



を押して を押します。


Windowsをインストールする領域を作成する場合は、「Y」を選択します。

4








処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。

- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。次のメッセージが表示されます。

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…
- 6 または のどちらを入力するかにより、次のように作業が異なります。

を入力して を押す場合
基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから + + を押して、コンピュータを再起動します。
再起動後に、リカバリの実行を行います。
 p.132「HDDを購入時の状態に戻す」

を入力して を押す場合
「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを%で入力し を押します。続いて手順7に進みます。
- 7 基本 MS-DOS 領域が作成されます。を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 8 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。を押してから を押します。
- 9 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。を押してから を押します。
- 10 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。を数回押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 拡張MS-DOS 領域の作成 1 1 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 2 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。

- 13 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。そのまま  を押してください。
- 14 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。 を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。 を数回押して、FDISKを終了します。
- 15 コマンドプロンプト (P:¥>) が表示されます。
 +  +  を押してコンピュータを再起動し、リカバリの実行を行います。
 p.132「HDDを購入時の状態に戻す」
 リカバリの実行後に、下記「論理ドライブの作成」を行います。

論理ドライブの作成

拡張MS-DOS領域 拡張パーティション を作成した場合は、WindowsXPのインストール後に論理ドライブを作成します。作成するには、WindowsXPの「ディスクの管理」を使用します。
 論理ドライブの作成方法は次のとおりです。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 画面左側の「記憶域」にある「ディスクの管理」をクリックします。
- 3 「ディスク0」の「空き領域」を右クリックし、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」を選択します。
- 4 新しいパーティションウィザードが起動したら、画面の指示に従って設定を行います。
 新しいドライブが割り当てられます。フォーマットが終了すると領域が使用できるようになります。



WindowsXPで作成した論理ドライブは、FDISKコマンドでは削除できません。論理ドライブを削除する場合は、必ず「ディスクの管理」から実行してください。

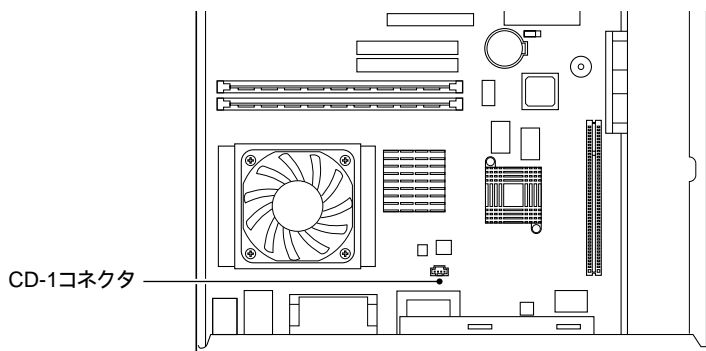
コンピュータ内部のケーブル接続

コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したりする必要はありません。誤って、外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置
(メインボード上)



ケーブル接続

CD-1コネクタ

CDオーディオケーブルでCD-ROMドライブのCDオーディオコネクタと接続します。コネクタの向きに合わせて接続します。



機能仕様一覧

CPU		インテルPentium4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサ
メモリ	ROM	Award BIOS
	メインメモリ	Windows98:512MBまで搭載可能 Windows2000/WindowsXP:最大1024MB(1GB)まで搭載可能
ビデオコントローラ		nVIDIA GeForce2 MX200
	ビデオメモリ	16MB
サウンドコントローラ		Intel845チップセット内蔵AC'97
キーボード		日本語対応106コンパクトキーボード
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵
	内蔵HDD	IDE HDD1基内蔵 Ultra ATA/100対応
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPP サポート)
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)
	VGA インタフェース	1(アナログRGBミニD-SUB 15ピン)
	DVI-D インタフェース	1(デジタルモニタ DVI-D 24ピン)
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換ミニDIN 6ピン)
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換ミニDIN 6ピン)
	ネットワークインタフェース	1(RJ-45 10Base-T および100Base-TX 自動認識)
	サウンドインタフェース	本体前面 マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1
		本体背面 ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、ゲームポート/MIDI コネクタ×1
	USB インタフェース	本体前面 2
		本体背面 2
ドライブ ベイ	3.5 型ドライブベイ	1(FDDで使用済み)
	5.25 型ドライブベイ	1(CD-ROMドライブで使用済み)
	HDDドライブベイ	1(HDDで使用済み)
外部拡張スロット		2(PCI対応スロット)
		上段スロット ボード長:130mm、ボード幅:107mmまで装着可能
		下段スロット ボード長:130mm、ボード幅:65mmまで装着可能
カレンダー時計		内蔵 内蔵電池によりバックアップ)
電源容量		165W
入力電圧		AC100V ± 10% (50/60 Hz)
温湿度条件		温度:10 ~ 35
		湿度:20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体:約304(幅)×375(奥行)×88(高さ)mm(突起部除く)
重量		本体:約7.1Kg 本体のみ)
消費電力		待機時消費電力約4W(最大254W)

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

Accelerated Graphics Portの略で、CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略で、コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。起動するとも言います。

CPU

Central Processing Unitの略で、コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略です。CPUを介せずに、周辺機器とメモリ間で直接データ転送を行います。

使用例 DMA転送により高速なデータの入出力が可能です。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のことです。複数のDMA転送を行う機器が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります

DRAM(ディーラム)

メモリの種類のことでDynamic Random Access Memoryの略です。

コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

DVI

DDWG(Digital Display Working Group)によって提案された、デジタルディスプレイを接続するためのインタフェースのことです。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16ファイルシステムでは2GBまで)。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイス間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略。周辺機器からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張ボードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドボードではIRQ7を使用します。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

OS

Operating Systemの略で、コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种で、一般的に採用されている拡張バスのことです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張ボードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことで、外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略で、コンピュータと周辺機器間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

使用例 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

SDRAM

DRAMの一種でアクセスが速いのが特長です。最近では、DRAMの代わりにSDRAMがメインメモリに使用されています。

USB

Universal Serial Busの略で、比較的低速な機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USB対応の製品に接続します。

Ultra ATA/100

IDEインタフェース上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

VGA

640×480ドット16色を表示するDOS/V機の基本的なビデオ表示機能です。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。= HDDのデータを読み書きします。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

【使用例】 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺機器の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

【使用例】 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

解像度

画面表示の細かさのことです。

【使用例】 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

【類義語】 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張ボードを装着するためのスロットです。拡張ボードには、AGPバス用拡張ボード、PCIバス用拡張ボードなどがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

起動する

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすることや、アプリケーションなどを実行して使用できるようにすることなどを「起動する」と言います。

【類義語】 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

【使用例】 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

【使用例】 次のコマンドを入力してください。

サーバー

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバーと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

【使用例】 システムを起動する。=コンピュータの電源を入れて、OSを立ち上げコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンプスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンプスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ディスプレイ

表示装置のことです。

【類義語】 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

【使用例】 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

ドライブレター

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で、高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

【使用例】 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

【使用例】 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のことです。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

【使用例】 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張ボードや周辺機器などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張ボード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

【類義語】 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークに接続されたコンピュータ同士で通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDや、FDに付けた名称のことです。

メッセージ

入力されたコマンドに対してコンピュータが出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことで、主記憶とも呼びます。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

【使用例】 メインメモリは128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張ボードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

【類義語】 システム資源

ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン/ログアウト

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FDD)	45
2DD(FDD)	45
3.5 型FDD	6

A

ACPI Suspend to RAM	63
---------------------------	----

B

BIOSの設定	87
BIOS Setupユーティリティの操作	89
BIOS Setupユーティリティの終了	93

C

CapsLock	42
CD-ROM	51
CD-ROMイジェクトホール	6
CD-ROMイジェクトボタン	6
CD-ROMドライブ	6
~の不具合	115
CD-1コネクタ	155
CMOS RAM	88
CMOS RAMの初期化	129
COAラベル	3
CPU	4

D

DIMM (メモリ)	77
~の不具合	118
DVI-Dコネクタ	7、55

F

FAT32ファイルシステム	33、50
FD (フロッピーディスク)	45
FDD (フロッピーディスクドライブ)	45
~の不具合	113

FDDアクセスランプ	6
FDDイジェクトボタン	6
FDISKコマンド	144
FORMATコマンド	150

H

HDD (ハードディスクドライブ)	50
~領域の変更	141
~の不具合	114
HDDアクセスランプ	6

M

MIDIコネクタ	7
MS-DOS領域のフォーマット	150
MS-IME	41

N

NTFS	33、50
NumLock	42

P

Passwordの設定	96
-------------------	----

S

Safe(セーフ)モード	55、111
Scroll Lock	42
Supervisor Password	96

U

USBコネクタ	6、7、68
User Password	96

V

VGA(モニタ)コネクタ	7、55
VirusScan for Windows	69

W

Windows98	(9)
~のセットアップ	20
~起動ディスクの作成	28
Windows2000	(9)
~のセットアップ	22
~セットアップブートディスクの作成	29
WindowsXP	(9)
~のセットアップ	24
Windowsキー	40、43

50音順

あ

アイコン	(10) \ (11)
------------	-------------

い

インストール時の不具合	118
-------------------	-----

う

ウィルス	69
------------	----

お

お手入れ	124
お問い合わせ情報ラベル	3

か

解像度の変更	56
拡張ボードの装着	81
拡張スロットの仕様	81
拡張MS-DOS領域	141
管理者パスワード	96

き

キーボード	40
~の接続	14
~の不具合	108
キーボードコネクタ	7
キーロック表示ランプ	40、42
起動方法(リカバリCD使用)	145
機能キー	40
機能仕様一覧	156
休止状態	61
強制取り出し (CD-ROM)	54

く

クリック	18、44
------------	-------

け

警告メッセージ	121
ゲームポート/MIDIコネクタ	7

こ

コンピュータウィルス	69
コンピュータ本体の不具合	104
ゴム足	11

さ

サウンド機能	58
--------------	----

し

シリアルコネクタ	7、68
仕様	156
省電力機能	60
~に関する不具合	107

す

数値キー	40
スクロール	44
スタンバイ	61
スピーカの不具合	120

せ

セットアップ	20
Windows98インストールモデル	20
Windows2000インストールモデル	22
WindowsXPインストールモデル	24
セットアップブートディスクの作成	29

た

大容量ディスクサポート	144
縦置きスタンド	10
タスクバー	(10)(11)
タブ	(10)(11)
ダブルクリック	44

て

ディスプレイ	55
～機能	55
～の接続	12
～の不具合	110
デスクトップ	(10)(11)
電源コードの接続	16
電源コネクタ	7
電源スイッチ	6
電源の入れ方	19
電源の切り方	36
電源ランプ表示	61
添付ソフトウェア	5

と

ドラッグアンドドロップ	44
-------------------	----

に

日本語入力システム	41
-----------------	----

ね

ネットワーク	
～機能	67
～に接続する	15
ネットワークコネクタ	7

は

ハードディスクドライブ (HDD)	50
～領域の変更	141
～の不具合	114
パスワード	96
Supervisor Password	96
User Password	96
パラレルコネクタ	7、67
ハングアップ	38
バックアップディスクの作成	26

ひ

表示色の変更	56
--------------	----

ふ

プリンタの不具合	120
フロッピーディスクドライブ (FDD)	45
フロッピーディスク (FD)	45

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	6、58
--------------------	------

ほ

ボタン	(10)(11)
ボリューム	6
本体カバー	74
~ の取り外し	74
~ の取り付け	76
本体内部ケーブル	155

ま

マイク入力コネクタ	6、 58
マウス	44
~ ドライバのインストール	138
~ のお手入れ	124
~ の接続	15
~ の不具合	109

め

メモリ (DIMM) の不具合	118
-------------------------	-----

ゆ

ユーザーパスワード	96
ユーティリティCD	5、 132

ら

ライトプロテクト (FD)	49
ライン出力コネクタ	7、 59
ライン入力コネクタ	7、 59

り

リカバリCD	5、 132
リセット	38
リチウム電池の交換	126

ろ

論理MS-DOSドライブ	141
論理ドライブの作成	154

Memo

Memo

Memo

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

漏洩電流自主規制について

本装置は、(社)電子情報技術産業協会(社)日本電子工業振興協会)のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

インテル、Pentium、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

VirusScanは米国法人Network Associates、Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標(地域によっては登録商標)です。

IBM、PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売 株式会社



大豆油インキを
使用しています。



このユーザーズマニュアルは
再生紙を使用しています。

C77192002 02.05-20.15(SO)